令和二年九月一日発行（毎月一回一日）
書　象　第六十八巻　第九号　通巻七七八号

# 書象

私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

SHO JAPAN

日本書道芸術協会

2020－9

巻頭言

# 私の好きな古典 ―信山書法の原点を求めて―

副理事長　中村巍山

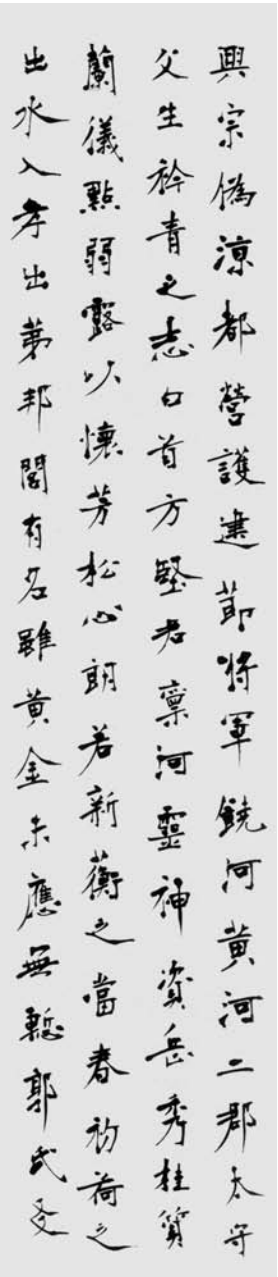
初春から、コロナウィルス感染拡大防止により自粛生活を余儀なくされ環境が一変した。現在でも自宅滞在が多く、自分の趣味に興じている毎日だ。天気の良い日は早朝から家庭菜園で土と戯れ、雨の日は読書や書に親しむといった晴耕雨読の日々を楽しむことが多くなった。

私は信山流を学ぶため、東京オリンピックの開催された昭和三十九年の春、熊本から上京し信山先生の門を叩いて、半世紀が過ぎてしまった。入門当初は折帖手本によって楷書、行書の基本から九成宮醴泉銘、集字聖教序の古典を揮毫していただき、ただ一途にその練習に没頭。週に一度の稽古は、いつも朱だらけの添削ばかりで一向に前に進まない。大学三年頃から張猛龍碑の臨書の許可が出て、やっと念願が適えられ興奮をおぼえた記憶が蘇る。

我々が学ぶ信山書法、所謂信山バリの原点は、昭和十年信山先生二十九歳で宮島詠士先生に師事された頃から始まる。宮島先生ご逝去の十八年までの約七、八年間で書風が一変した。詠士先生は執筆法の重要性を説かれ〝大切なのは筆の持ち方である〟と段玉裁の『述筆法』を読解し実践しなさいとのことであった。詠士先生の師張廉卿がなし得た中鋒復活の根源はこの用筆法だ。信山先生はまず九成宮の臨書に専念するように命ぜられた。この帖の徹底的な学習にあけくれ全臨のお許しをいただくのに三年、次は待望の張猛龍碑の学習である。この二つの古典と執筆法により現在の信山流が誕生したのである。

上條先生の臨書は、精緻、清澄、勁峻で生気が充溢し、洗練され格調高く気品に満ちている。六月の五十九回書象展の特別出陳で信山先生の仮名作品と張猛龍碑の臨書が展示された。臨書は半切六幅で構成され詠士先生を髣髴させる見事な作である。会員の皆さんも図録をじっくりと鑑賞していただきたい。あまりにも素晴らしい古典臨書に感銘を受け現在の自分の姿勢は何だ〝もっと古典を勉強しろよ〟と反省を促された思いである。信山流の原点に立ち返り再度学習しようと決意をした。

それは、私の大好きな法帖「九成宮醴泉銘」の全臨と『張猛龍碑』両面の全臨である。この二帖を信山先生の提唱する「創作的臨書」による印象的表現方法で、自粛生活を利用して意欲的に取り組んでいる。しかし難しいものである。信山先生の言う、「書は一生の稽古である」の信念を心に秘めて精進している。



第59回書象展　上條信山先生「臨張猛龍碑」　132cm×30cm

基　本【基本】

上條信山先生書

黒少なうして白偏(ひとえ)に多し

9月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

**楷書臨書規定【臨規】**（師範・準師範・段位）　**化度寺碑**

上條信山先生書

西雲門寺。依止

9月20日必着
出品券を貼付

・点画の方向、長短を意識し、伸びやかな線質を心がける。
・文字の中の余白のとり方に気をつける。
・文字の中心をそろえ、字間は等間隔を意識する。

倶
浄

# 楷書臨書規定【臨規】（級位）

## 化度寺碑

上條信山先生書

・文字の中心、偏と旁のバランスに注意し、引き締まった線で書く。

**倶**…三・四画目の縦画は背勢を意識し、横画は右上がりに平行に書く。

**浄**…氵の点画の位置に注意し、最終画を伸びやかに書く。

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

あき萩の（能）さき（支）散る野べの（能）夕露に（二）
ぬれつつ（ゝ）来ま（万）せ夜は（八）ふ（布）け（介）ぬとも（毛）　（万葉集）

9月20日必着
出品券を貼付

・一行目と三行目下部で含墨し、中央に空間をつくり渇筆を生かした明るい作品にしたい。
・前半は左下方向へ、後半は右下方向への流れを意識し、三行目に添うように四、五行目を収束させる。

「野べ」

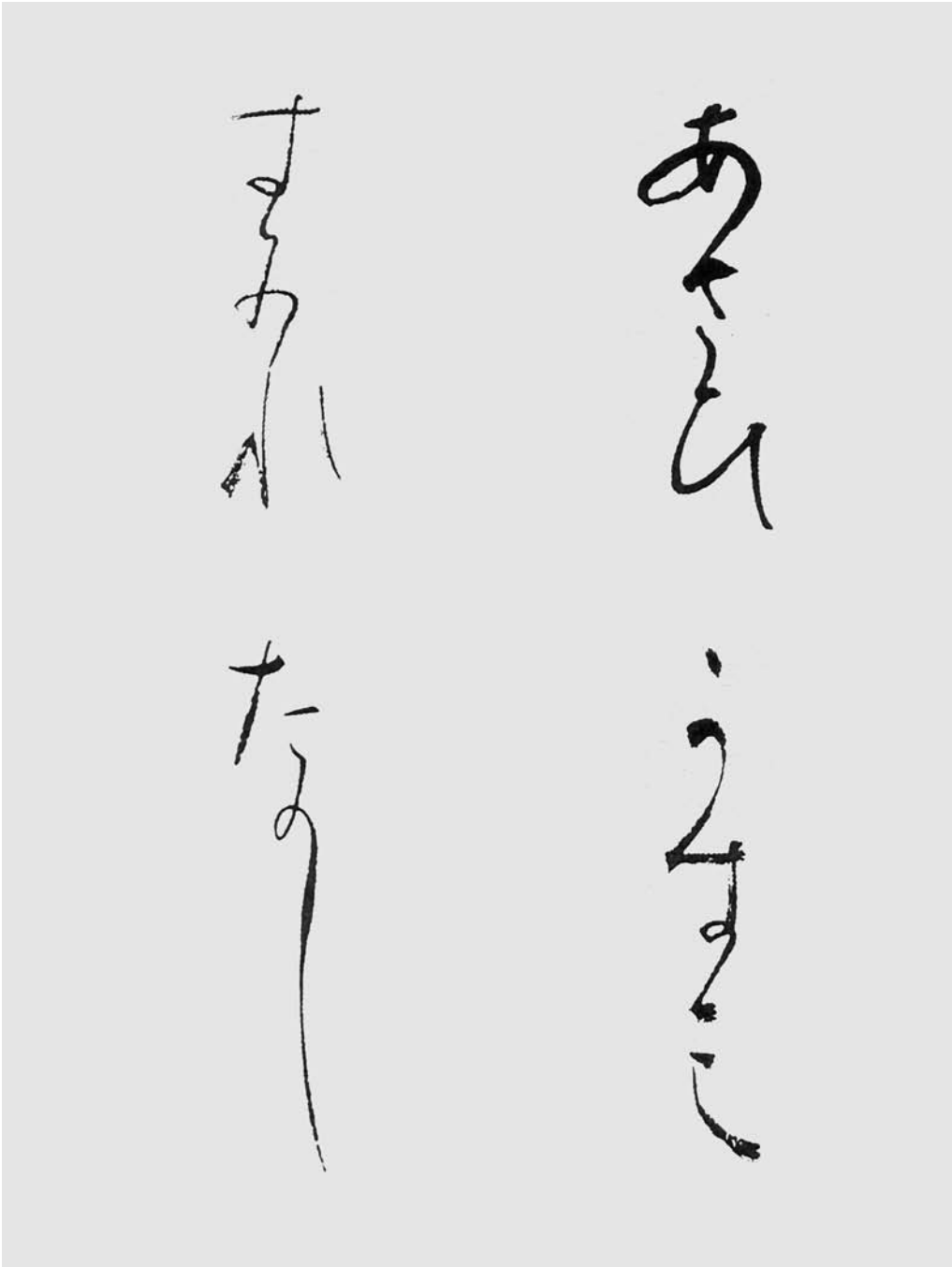
「露」

「来ま（万）せ」

「ふ（布）け（介）ぬ」

## 仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



あさひ　か（可）すみ（三）　すみれ　たのし

・単体の文字の形をしっかり把握した上で、三字を一気に書きあげる。

・↙部分の連綿の線を文字と同じ太さに書く。

「あさひ」

「か（可）すみ（三）」

「すみれ」

「たのし」

研　究【研究】　「張猛龍碑」　臨書

釈文　乃辭

勒石圖口。永口口口盪寇將

※どちらか一体を出品してください。

9月20日必着　出品券を貼付
入選作のみ発表します

田中節山先生書

**今月のポイント**
・左払いは雄大に。（巻頭言図版の信山先生の作品参照）
・「辭」は横画のスピード感と画間の余白を意識する。

杉山暁雲先生書

**今月のポイント**
・折れ、はね等点画を力強く。
・文字の中の余白を広く。

## 隷書条幅規定【条規】

上條信山先生書

段級位を明記のこと

和楽瑟琴の如し

- 墨量を多くし、太めの線で書く。
- 左右の払いの変化に注意する。
- 文字の概形は横広。

## 条幅随意【条随】

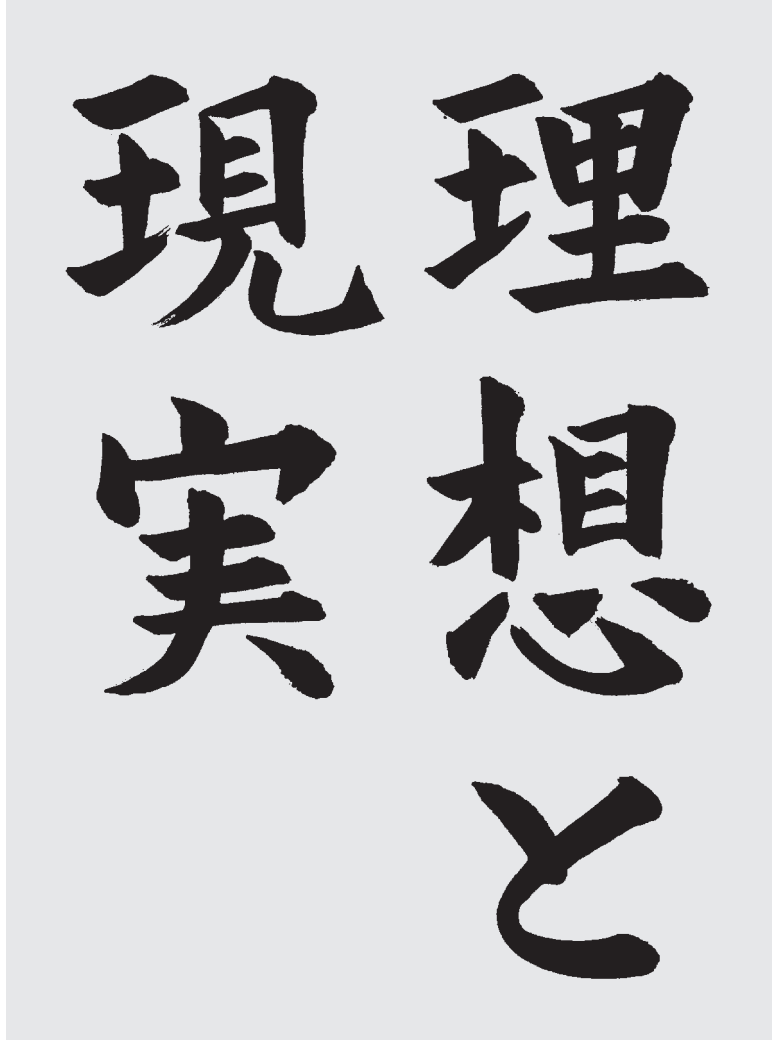
中村巍山先生書

入選作のみ発表します　出品券を貼付

高きに登りて故事を尋ね
酒を載せて幽人を訪う（おとな）　（孟浩然句）

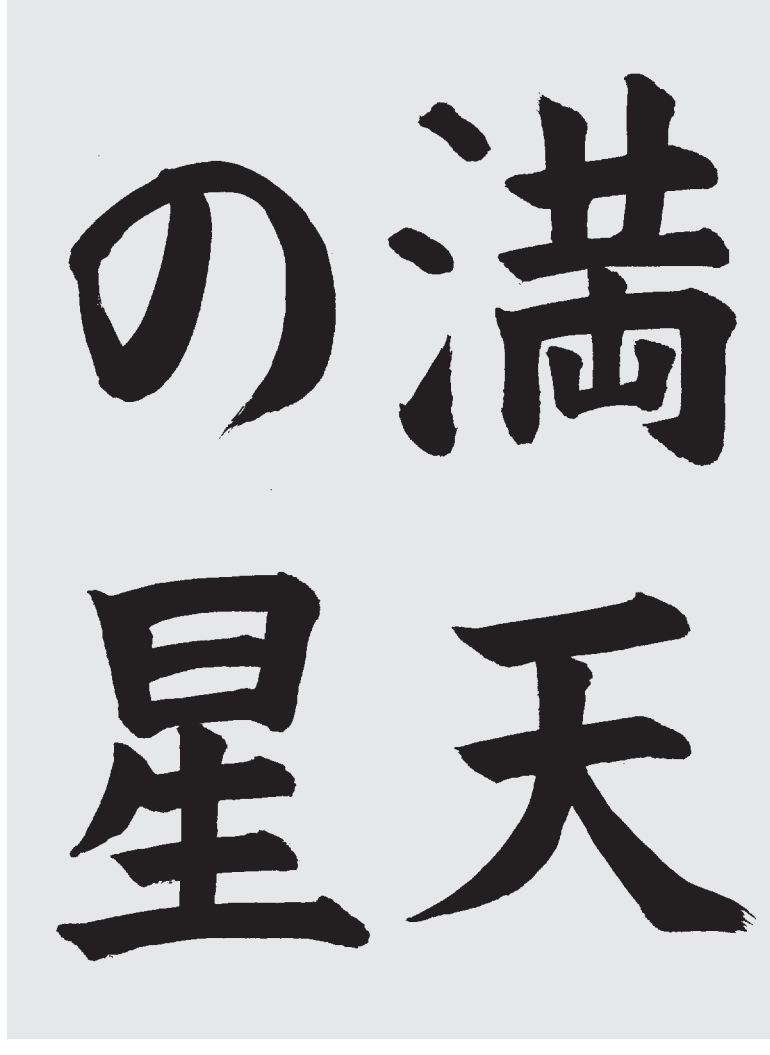
- 「故事」の形・二文字の流れの工夫を。
- 「幽人」で墨を含ませ、作品に潤渇をつける。
- 落款は重くならないように。

中学一年規定　【学毛】　樋口玄山先生書

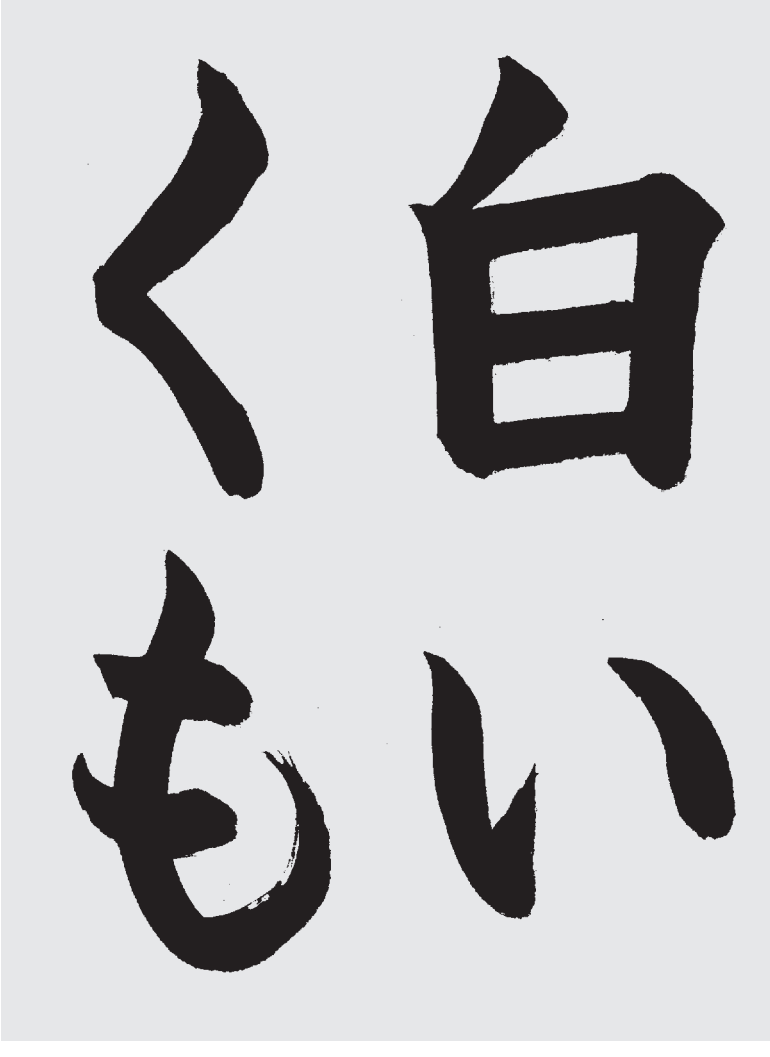



中学二・三年規定　【学毛】　田中節山先生書

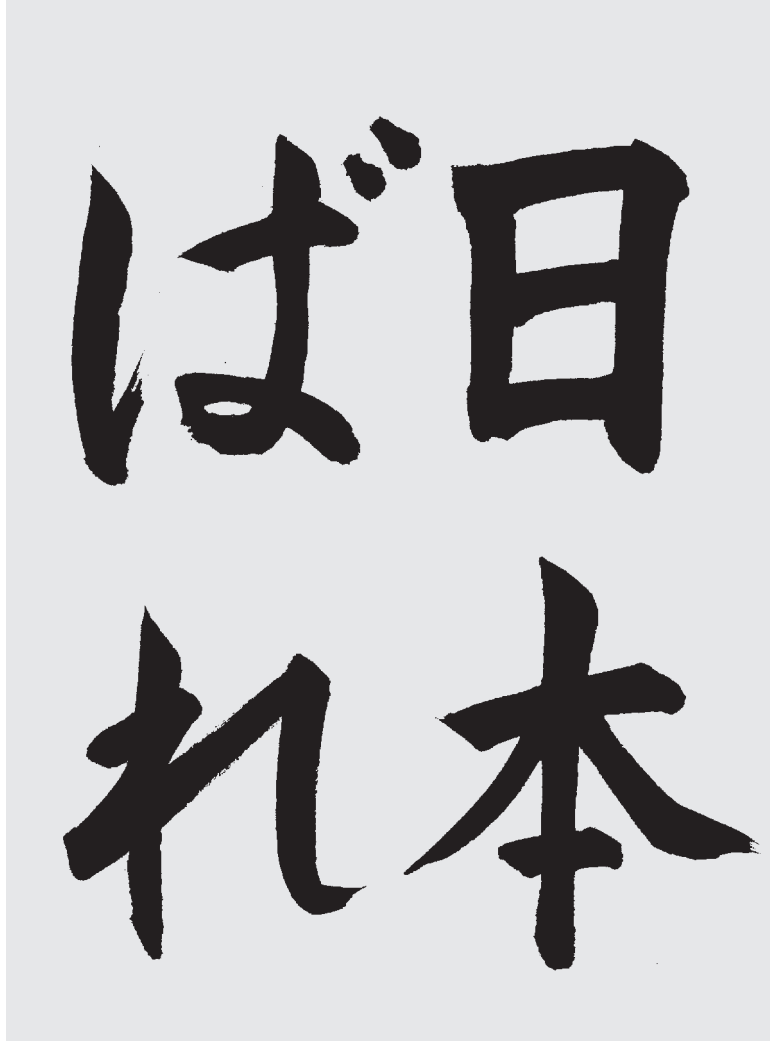
小学五年規定　【学毛】　宮本耕成先生書




小学六年規定　【学毛】　石丸暁風先生書




小学三年規定　【学毛】　蕪木珠紅先生書




小学四年規定　【学毛】　露﨑玄峯先生書

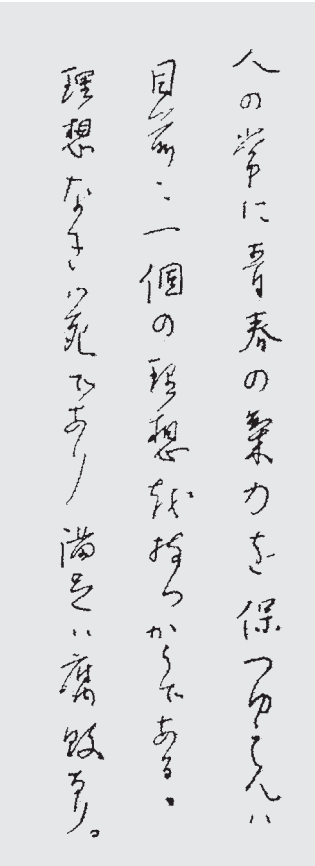
小学一年規定　【学毛】　渡辺華雪先生書

小学二年規定　【学毛】　柳澤玄嶽先生書

## 硬筆規定

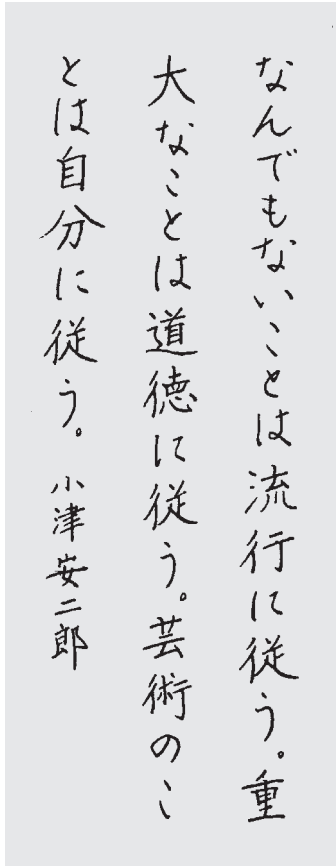
人の常に青春の気（氣）力を保つゆえんは（八）目前に（二）一個の理想を（越）持つからである。理想なきは（八）死であり満足は（八）腐敗な（奈）り。

一般規定【一硬】（師範・準師範・段位）　上條信山先生書



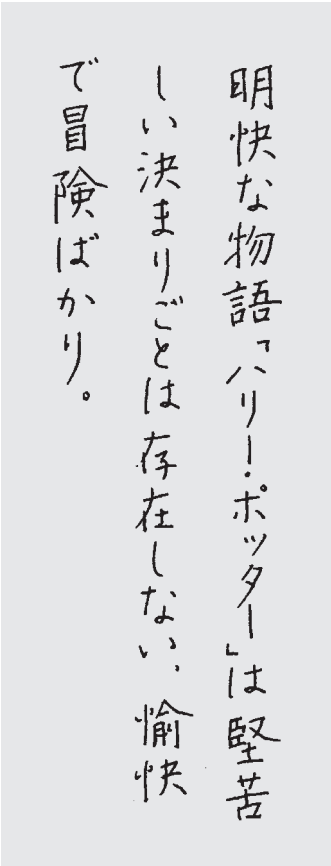
なんでもないことは流行に従う。重大なことは道徳に従う。芸術のことは自分に従う。小津安二郎

一般規定【一硬】（級位）　二瓶嶽風先生書



明快な物語「ハリー・ポッター」は堅苦しい決まりごとは存在しない。愉快で冒険ばかり。

中学規定【学硬】　藤岡月華先生書



## 小・中学生随意課題【学随】

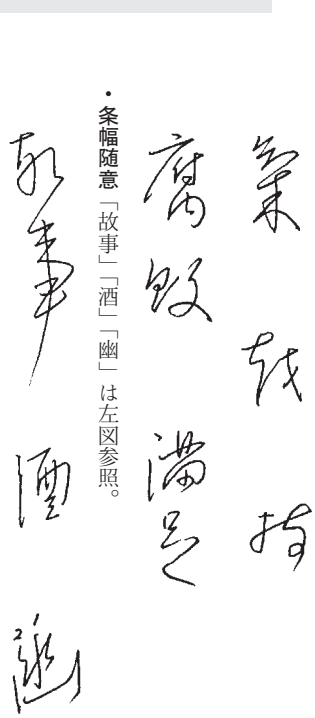
左の字句を半紙に書いてください。

| | |
|---|---|
| 小学一・二年 | 白 |
| 小学三・四年 | 麦 |
| 小学五・六年 | 半島 |
| 中学 | 観光 |

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

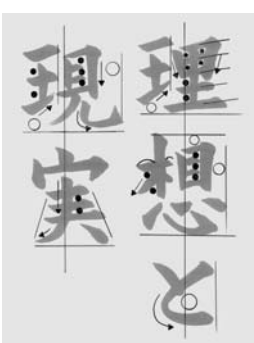
### 手本解説

・硬筆一般規定（師範・準師範・段位）「氣」「越」「持」「腐敗」「満足」は左図参照。



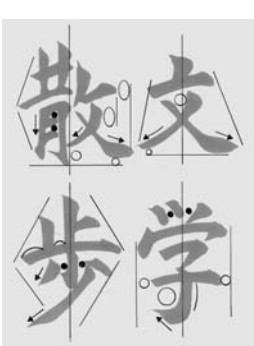
・条幅随意「故事」「酒」「幽」は左図参照。

### 学生部規定



中学二・三年

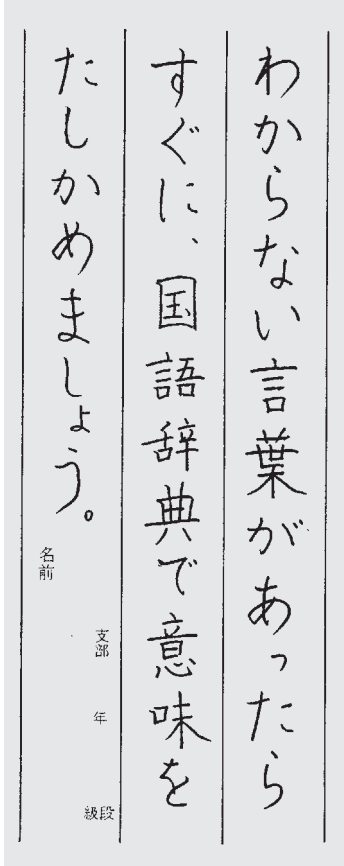
「理」は里の横画・縦画を等間隔に。「想」は心を扁平にして上部とのバランスを図る。「現」の王は右端を揃え幅を狭くする。「実」の七画目は六画目と交わるまでは垂直に、最終画を止める書き方は許容。



中学一年

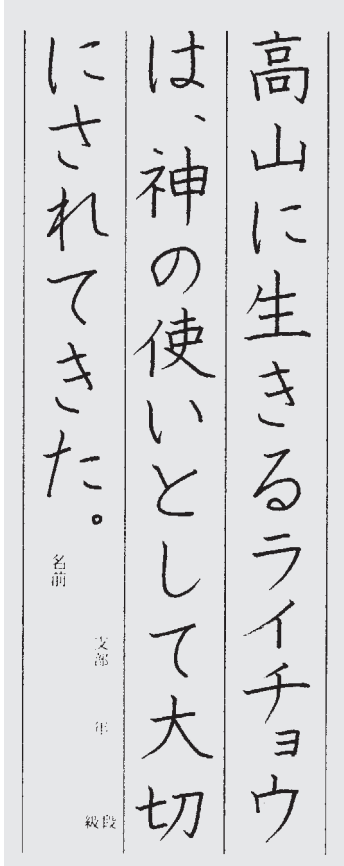
「文」は一画目を中心に書き、左右の払いのバランスを考える。「学」は冖を最大幅とし七画目は右に少しそる。「散」は偏と旁のバランスに注意する。「歩」の外形は菱形、四画目を最大幅とする。

小学五・六年規定【学硬】



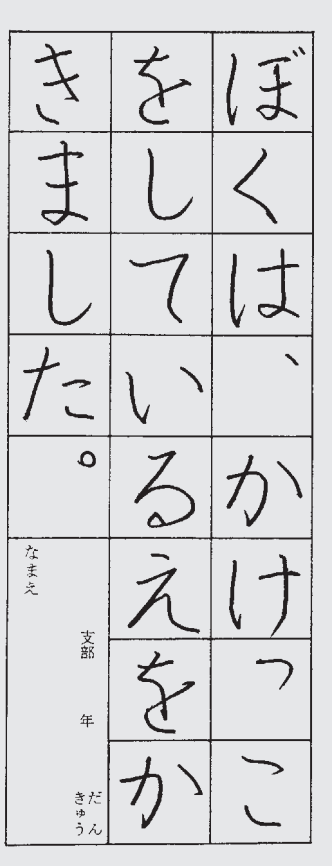

大澤梢光先生書

小学三・四年規定【学硬】




大島皎山先生書

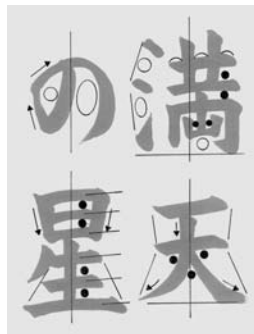
小学一・二年規定【学硬】




成瀬恵苑先生書

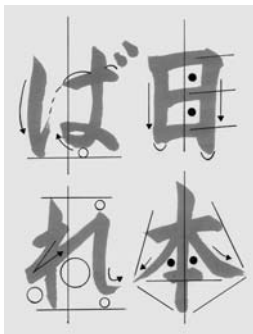
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大きさ→たて18㎝よこ7㎝　小一・二課題→2.1㎝のマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1㎝巾の罫線を引く。



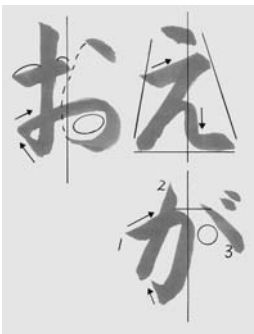
小学六年

「満」は偏と旁のバランスに注意し、旁の空間を狭くしない。「天」は横画の長短に注意し、左右の払いを伸びやかに。「の」は中心から書き始める。「星」は日と生を扁平にし、横画の方向を統一する。



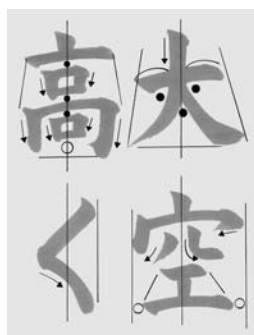
小学四年

「日」の縦画は垂直に書き、余白は均等にする。「本」は二画目を中心として左右の払いを伸びやかに書く。「ば」の一画目はやや左にふくらみを持たせる。「れ」の終筆は丸みをつけて軽快に。



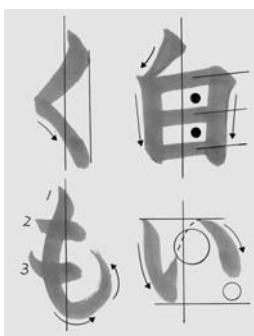
小学二年

「え」は二画目の線の方向や角度に注意し底辺を揃える。「が」は一画目の横から縦に向かうあたりを中心にする。「お」の大回りの線は横広を意識する。



小学五年

「大」の二画目は横画と交差してから払い始める。「空」は宀を最大幅として点画の組み合わせを意識する。「高」は横画の間隔と方向に注意して書く。「く」は縦長に、折れをはっきりと。



小学三年

「白」の二本の縦画はやや内側に向け、横画の方向を揃える。「い」は向かい合う線の角度に気をつけやや丸みをつける。「く」は折れの前後の角度と方向に注意する。「も」の一画目は中心から書き出す。

小学一年

「や」の一画目はやや右上がりに横に長く書き、三画目の終筆の方向に注意する。「ま」の一・二画目の横画は長さと方向に注意して書く。

古典研究シリーズ ㊼【古典】

# 乙瑛碑

## 後漢・永興元年（一五三年）

今月のテーマ

表現的臨書（最終回）

書き方

①半紙は縦・横自由。
②文字数は2〜4字。2月号から9月号に掲載している中であればどの部分でもよい。
③落款を入れて下さい。
④作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

**表現的臨書（A）**…線に主観を加える。

〈手順〉①最初に写実的臨書を何回も繰り返し、徹底的に『形』に迫る。
②形が把握できたら、その形を守って線に作者の意志を働かせ、線表現を試みる。

〈方法〉A、運筆に変化を与える。
・筆圧を加える。
・遅速緩急をつける。
・細太、強弱をつける。
B、筆の種類を変える。
・短鋒、中鋒、長鋒、羊毛、兼毫、剛毛、鶏毛、竹筆など使ってみる。
C、墨色を工夫する。
・濃墨、淡墨、にじみ、かすれを効果的にする。
D、様々な用紙を用いる。
・厚め、薄め、つるつる面、ざらざら面、染紙など使ってみる。

※試行錯誤を繰り返し、新しい線表現を試みて下さい。

※参考―現代臨書大系（小学館）

# 松本市美術館便り

上條信山記念展示室　令和二年七月二十八日（火）～十一月十五日（日）

## 作家と展覧会（前編）

季節ごとに巡りくる展覧会（公募展など）は、作家にとって日頃の成果を発表する場であると同時に、気持ちを切り替えて次の制作へと向かうステップにもなっています。一方、節目の個展ともなれば、作家が歩んだ足跡を一堂に展観するのに加え、多様な表現や大作への挑戦も必要となることでしょう。

今年度、上條信山記念展示室では、作家がライフワークとして出品した展覧会ごとに特集し、前編と後編に分けてご紹介します。

前編は、春から夏にかけて開催されている「書象展」と「毎日書道展・読売書法展」です。年代により新たな表現を模索し続けた創作の軌跡と情熱を肌で感じていただければ幸甚に存じます。

《源泉》を制作していた頃の上條先生

### 上條信山記念展示室展示作品

| No. | 作品名 | 制作年 | 年齢 | 寸法（cm） | 主要展覧会 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 霽晨 | 昭和47年（1972） | 65 | 139.0×65.5 | 第11回書象展 |
| 2 | 李太白詩「月下独酌」 | 昭和49年（1974） | 67 | 27.8×117.0 | 第13回書象展 |
| 3 | 心豪 | 昭和60年（1985） | 78 | 130.0×67.4 | 第24回書象選抜展 |
| 4 | 地花人愛 | 昭和63年（1988） | 81 | 49.2×216.9 | 第27回書象展 |
| 5 | 清入骨 | 昭和45年（1970） | 63 | 69.0×234.3 | 第22回毎日書道展 |
| 6 | 法天 | 昭和55年（1980） | 73 | 87.0×161.5 | 第32回毎日書道展 |
| 7 | 墨魔 | 昭和57年（1982） | 75 | 90.0×161.8 | 第34回毎日書道展 |
| 8 | 源泉 | 昭和59年（1984） | 77 | 81.5×148.1 | 第１回読売書法展 |
| 9 | 玄風 | 平成元年（1989） | 82 | 69.3×136.0 | 第６回読売書法展 |
| 10 | 丹心 | 平成３年（1991） | 84 | 69.0×135.2 | 第８回読売書法展 |
| 11 | 心如水 | 平成６年（1994） | 87 | 68.0×154.0 | 第11回読売書法展 |
| 12 | 杜甫詩「春望」 | 昭和23年（1948） | 41 | 135.0×46.0 | 第１回毎日書道展 |
| 13 | 李太白詩「月下独酌」 | 昭和32年（1957） | 50 | 168.0×67.0 | 第９回毎日書道展 |
| 14 | 柳宗元詩「登柳州城楼寄漳汀封連四州」一節 | 昭和37年（1962） | 55 | 135.4×34.4 | 第14回毎日書道展 |
| 15 | 出家尊三宝 | 昭和46年（1971） | 64 | 135.3×34.0 | 第10回書象展 |
| 16 | 大象 | 昭和62年（1987） | 80 | 137.0×69.0 | 第26回書象選抜展 |

源泉

出家尊三宝

心豪

# 第59回 書象展

会期　六月十一日(木)～二十一日(日)

会場　国立新美術館二階C・D展示室

広々とした会場に玉作が並ぶ

田中節山先生が俊英五人展の作品を説明
日展特別会員 鈴木春朝先生（左から２人目）

俊英五人展の大作

樋口玄山先生が子供達にわかりやすく説明

上條先生の作品をじっくりとご覧になる
日展名誉会員 杭迫柏樹先生（右から２人目）

自分の作品といっしょにハイチーズ
（新沢優成君 この葉支部）

「第51回全国学生書道展」作品展示

# 書壇から来場の先生方

日展監事
土橋靖子先生（左）

日展理事
星　弘道先生（中央）

日展理事　新井光風先生（右）

日展会員・ 特別会員
清水透石先生（中央）

日展理事・特別会員　高木聖雨先生（左から２人目）

読売新聞社編集委員
菅原教夫様（右）

書道文化研究家
西嶋慎一様（中央）

日展会員・特別会員
海野濤山先生（中央）

## 第59回展を終えて

展覧会部部長　荻　田　光　山

五十九回目の書家展を無事に、そして継続できましたこと、まずもって御礼申し上げます。

新型コロナ感染症の蔓延により、展覧会開催も危ぶまれる中、粛々と準備し、時が来ることに期待しておりましたが、間隙を突くが如く、「日本の書二〇〇人選」「日本の書展」と共に開催できたことは大変幸運でした。

また、添削会、選考会、審査会、開展準備から会期中までの大幅な変更に伴い、支部長はじめ出品者の皆様には、多大なご協力をいただきました。係としては不安ばかりが先行しておりましたが、本会の底力を感じることができ、心から感謝しております。

来年度はいよいよ六十回記念展になります。社会状況は、未だ予断を許さない厳しい状況ですが、一つずつ確実に準備していこうと考えております。

会員の皆様も健康に留意され、上條先生の「書は一生の稽古なり」の言葉を胸に、今できる学びを大切にしていただければ幸いです。

# 俊英五人展
## 誌上インタビュー

芦川臨泉

Q1、作品のテーマは？
A、漢字とカタカナがうまく調和し、上品さの中にも強さがあり、また、整斉の美を感じさせるような明るい作品に仕上げようと思い、常に全体感を頭の中に思い描きながら書くように心掛けました。

Q2、作品制作での注意点、苦労したことは？
A、多字数、多行数であるため、行間の統一、行が曲がらないこと。作品に変化をつけるため、墨の潤渇に注意したり、筆（羊毫・兼毫、大きさ）、墨（濃・淡・宿墨、色）の組み合せで、どの組み合せが一番合うのか、試行錯誤を繰り返し、考えて書きました。

Q3、取り組んでみて感じたこと、エピソードなど
A、家で書いた作品は、狭い空間に圧迫されているためか、窮屈な感じであるが、広い場所で書いた作品は、開放感があるためか、伸び延びしていて、スムーズな感じがする。やはり作品制作する時は広い場所がよいということ、また、この作品の製作時間は三～四時間であるが、その間、書き続けるという集中力も重要であると痛感した。

Q4、展示されている作品を見ての感想、次の作品に向けての課題、抱負など
A、自分の中ではやりきった感があったが、いざ作品を見てみると、全体感、線質など自分の思い描いていたものと大分異なっている部分があった。この作品制作を通して得た技術面・精神面などの経験を基にして、自分の理想とする作品に少しでも近づけるように、今後さらに努力を重ね、成長していきたいと思う。

大澤梢光

Q1、作品のテーマは？
A、「大作」。今までとは体力が違うと考え、今回は文字を小さくしてまとめようと試みました。そして、似合わないことですが、瀟洒な明るい作品になればと願いました。

Q2、作品制作での注意点、苦労したことは？
A、六幅の長条幅ということで、書く場所は大きな会場もお借りしましたが、移動に負担があり家の床面積を広くして書きました。書き終えた作品全体をたてて観る事が出来ないのが難点でしたが、友人からお借りした「膝あて」は大変気に入りました。

Q3、取り組んでみて感じたこと、エピソードなど
A、作品制作は大変だったの一言です。小字にすればなんとかなるだろうと考えましたが、大きな勘違いでありました。終了までのなんと長いこと。二枚目あたりで疲れ一休み、そして辛抱強く書き続け、最終幅にいたりやっと気分が軽くなったのを覚えています。多字数のまとめ方は今後の課題となりました。

Q4、展示されている作品を見ての感想、次の作品に向けての課題、抱負など
A、常日頃の取り組み方、姿勢が正直に表われてくるものだと考えさせられました。この作品制作によって自分を見つめ直すよい機会を得たことに感謝いたします。

来司信博

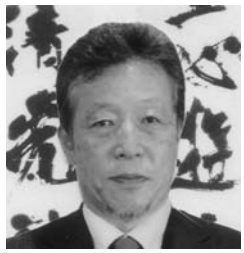
Q1、作品のテーマは？
A、杜甫の七絶を題材として、直線的な骨格と膨らみのある線表現を意識し、大字による強く豪快な表現を目指しました。選文にあたっては、詩の内容も確認しながら、見せ場となる文字がうまく配置できるかという観点から数種の原案を作成し、絞り込んでいきました。

Q2、作品制作での注意点、苦労したことは？
A、最も苦労したことは、迫力を出しながら全体の調和を図ることです。提出作品ではやや長鋒の筆を使用し、墨は二種類の和墨を機械で磨り合わせました。この三月まで筑波大の大学院におりましたので、制作会場は構内の広い書作部屋を利用することができました。

Q3、取り組んでみて感じたこと、エピソードなど
A、提出作品は三月四日に書いたものです。それまで長らく旧作を抜けずにいましたが、この日は特に調子がよく、「抜くなら今日しかない」と決めて集中的に制作しました。また、半年にわたる制作中、大学院の後輩が付きっきりでサポートしてくれたことに感謝しています。

Q4、展示されている作品を見ての感想、次の作品に向けての課題、抱負など

A、会期中、様々な先生からご講評を頂戴しました。今後に向けた課題は尽きませんが、一方で今持っている実力以上の力を出せたのではないかとも感じています。今後も一歩一歩しっかりと歩んで参りたいと思いますので、先生方にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



**竹内墨洋**

Q1、作品のテーマは？

A、次の俊英展では、作品サイズを97㎝×270㎝、二行×四幅と考えていたので前年の謙慎展で三×八尺の二行作品を試みて自分なりにイメージ作りはしていたつもりでした。北魏楷書をベースに最近勉強している顔真卿風な重厚さを、という狙いがありましたが北魏楷書のつながりの悪さ、中途半端な楷行の粗さのみが目立ってしまいました。

Q2、作品制作での注意点、苦労したことは？

A、展覧会場で、自分の作品に訴求力がないと感じることが多く、それを考えながら書くと、「字が大きすぎる」という指摘を受けます。仮に「力強さ」を求めてそれが大きくなることに直結しているとすれば、そもそもだと思いますが、どうにもわからなくなる迷路に毎回迷い込んでいる気がします。筆の大きさ、墨の濃さ、量、といろいろ工夫はしているつもりですが、結局はいつも似たような反省ばかりになってしまいます。

Q3、取り組んでみて感じたこと、エピソードなど

A、紙や字（のサイズ）が大きくなることがどれだけ作品構成に影響するか、全紙二行は半切一行×2ではない、ということを改めて感じました。書く場所は自宅前にある公民館を借りる予定でしたが、運悪く耐震補強の工事で借りられず、その後は新型コロナの影響で閉鎖されてしまい、やむを得ず自宅で紙一枚分のスペースをやっと作って書き始めました。しかし、ただ、字を書いてみた、程度でしかなく、実家でなら何とかなるか、とかいろいろ思案しましたが、コロナの影響で急遽休校になったために、学校の書道室で書けることになったのがなんとも皮肉な感じでした。

Q4、展示されている作品を見ての感想・次の作品に向けての課題・抱負など

A、残念ながら三月中旬頃より上京が厳しくなり、最終選考から陳列、本展に至るまで一切足を運ぶことができませんでした。係として何もできなく申し訳なく思いました。陳列後すぐに写真を転送していただいたり、作品写真としていただいたり、或いは書象誌に載った作品を見ては、「もう少し、何とかならなかったのか」という気持ちが湧いてきました。半面、実物を見れば少し良かったところもあったかも、と協力してもらった家族への感謝をこめながら。また、ご指導いただいた先生方への感謝から、次はもっと向上を、という気持ちでおります。

**田中珠光**

Q1、作品のテーマは？

A、漢字とひらがなの調和体で臨もうと思っていましたので、大きい会場で呑み込まれないような作品を心掛けました。七連の詩を、一つ一つ独立させ、更に全体として違和感なくまとめることを意識し、太さのある作品となるよう取り組みました。

Q2、作品制作での注意点、苦労したことは？

A、一枚一枚は、全紙サイズでしたので、書くためスペースは特に問題はなかったのですが、八枚通しての統一性を持たせることが大変でした。又、最終的には色画仙紙で仕上げたかったのですが、その色調と墨色を合わせることも難しく苦労しました。

Q3、取り組んでみて感じたこと、エピソードなど

A、藤村の詩を原文のまま書いたので、一行毎の文字数が一定でない為、それらを同じ様に表現するのに苦労しました。さらに作品〆切の頃には、広い会場を確保するのも難しく、書いた作品を広げて比べるということが出来ないままとなり、イメージのみで書くしかありませんでした。

Q4、展示されている作品を見ての感想、次の作品に向けての課題、抱負など

A、思いもよらないウィルスの出現に、展示が出来るかもわからない状況でしたので、先ずは展示出来たことに感謝します。作品の出来は今一ですが、案外強い作品になった様に思います。太くしようと思っていたせいか、一字一字の結体の取り方に大きな問題もあり、泥くさい作品だった様で、もっとさわやかで明るい作品でありたかったと思っています。又、詩も字数を考えながら選んでいけたらと思います。

# 日本の書二〇〇人選

## ――東京2020大会の開催を記念して

会期　六月十一日（木）～二十一日（日）

会場　六本木・国立新美術館

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を記念する展覧会で、日本の代表的な現代書家約二〇〇人の作品が展示されました。書象会からは田中節山先生、市澤静山先生、内藤望山先生が推薦を受け出品されましたので、作品をご紹介いたします。

田中節山

（163×76㎝）

市澤静山

（171×68㎝）

内藤望山

（174×70㎝）

8月号では上條信山先生が提唱した新しい臨書法を現代臨書大系（上條信山編著者）より抜粋して掲載いたしました。十巻に及ぶこの本の中には、上條先生他書象会から九名の先生方が揮毫された臨書作品が掲載されています。今号より転載して紹介していきます。P16の古典研究の参考にして下さい。

# 現代臨書大系

……第一巻 中国Ⅰ 殷・周・秦・漢

〈殷 甲骨文〉 上條信山

天

歸

下

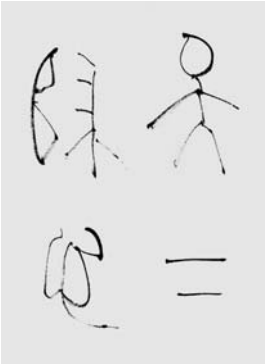
心

今から三五〇〇年ほど前の古代殷墟から、文字が刻された亀甲獣骨片が多数発見された。刻された文字は、大半が象形文字である。特に、天地自然の形あるものを抽象化した姿になっている。ここでは特に「天下歸心」ということばを集字してみた。「心」のような心象や思想を表す文字は、抽象化することがむずかしかったのであろうか、時代が下がって、金文になると姿を見せ始める。

（「心」は金文から採った。）

※表現的臨書A…線質に主観を加える
※表現的臨書B…形に主観を加える

印象的臨書

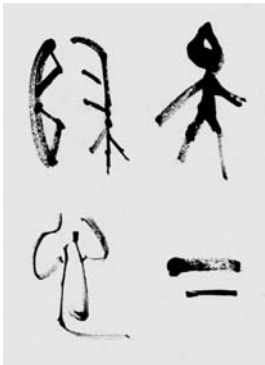


〈自解〉
細い線で、骨法的に書いてみた。

写実的臨書

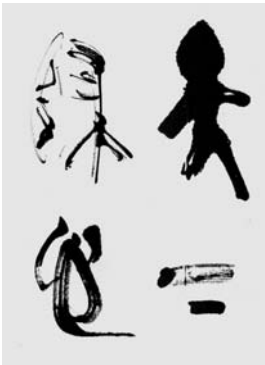
〈自解〉
筆意を加えることにより、刀線に生命をよみがえらせた。

表現的臨書（A）



〈自解〉
潤渇、遅速、細太の変化を工夫してみた。

表現的臨書（A）



〈自解〉
筆圧の大小、潤渇、遅速を加えて、線の変化を試みた。

表現的臨書（B）

〈自解〉
原典の特質を生かしながら全体構成を考え、文字に大小、長短の思い切ったデフォルメを加えて、作品的に表現してみた。

# 第48回日本の書展

会期　令和2年6月11日(木)～21日(日)
会場　国立新美術館（港区六本木）

## 秀抜選

〈東京展一部紹介〉――その2

塩川　冠泉

鈴木　花仙

滝本　華光

竹本　谿山

坪田　泰舟

中内　真意

中田　秀麗

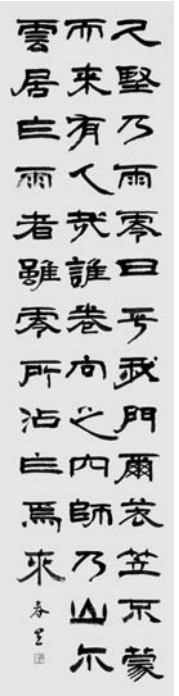
長田　詠李

福山　京江

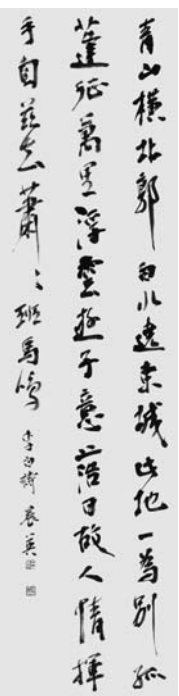
平川　華凜

日比野　照悦

橋本　幸楓



中堤　春里



森　晨英

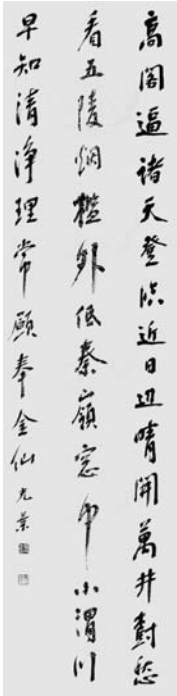
宮寺　瑤光

三沢　泰仙

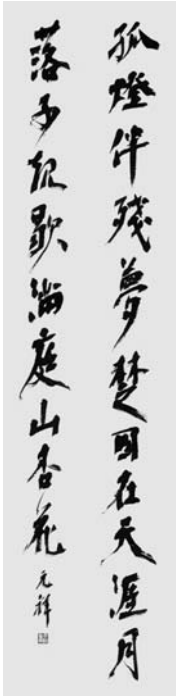
松本　小光

松尾　小楓

柳澤　雪葉



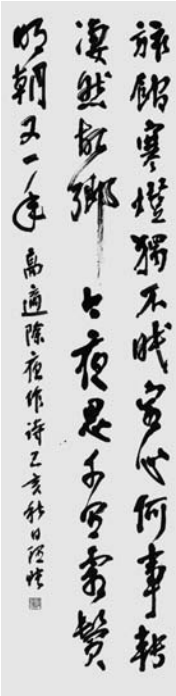
藪内　光葉



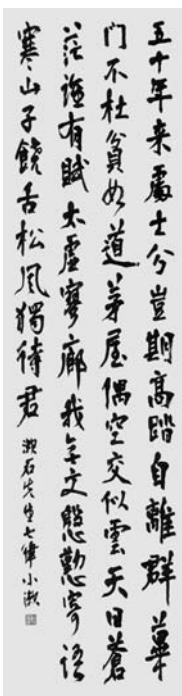
余語　元祥

〈関西展〉

出来　華泉



木内　理映



松井　小漱

久保田　珠悠

吉岡　蒼風

〈中部展〉

長谷川　石心

今井　翔山

# 藤森博士の漢字表記にもの申す⑰

書道学博士　藤森大節

今年の四月から小学校で全面実施となった新学習指導要領について、もう一つ注目すべき内容があります。小学校で学ぶ漢字が三十一年ぶりに増えることになったのはご存じでしょうか。「学年別漢字配当表」（いわゆる教育漢字）がこれまでの一〇〇六文字から新たに二〇字追加され、合計一〇二六文字になりました。新たに追加された二〇字は「社会科」の都道府県名に使用される漢字で小4の学習内容に追加されました。

茨　媛　岡　潟　岐　熊　香　佐　埼　崎
滋　鹿　縄　井　沖　栃　奈　梨　阪　岐

これらは元々中学校で学習していた漢字です。また、他の学年で学習していた漢字が小4の学習内容に移行されたものもあります。

賀　群　徳　富（小5から小4へ移行）
城（小6から小4へ移行）

これに伴い、児童の学習負担を配慮して他の学年に移行した漢字が三二字あります。

囲　紀　喜　救　型　航　告　殺　士　史　象
賞　貯　停　堂　得　毒　費　粉　脈　歴
（小4から小5へ移行）

胃　腸（小4から小6へ移行）
恩　券　承　舌　銭　退　敵　俵　預（小5から小6へ移行）

国語以外の教科でごく普通に教科書に使用されている漢字が「学年別漢字配当表」にないことは以前から指摘されていました。かなり時間を要しましたが、今回の改訂で改善されたことになります。

ところで、学習指導要領の改定をきっかけに、以前目にした「-漢字の未来-」（『朝倉漢字講座5　漢字の未来』収録）という文章を思い出しました。国語教育と漢字をテーマにした有識者二名の対談ですが、その主旨は次のようなものです。

主に外国人を対象とする日本語教育は、国籍や目的の異なる人々のニーズや能力を考慮した学習内容が組まれる。その漢字指導は「語彙」の指導と関連して進められ、漢字のみを単独で取り上げることは稀である。日本語教育の観点からすると、基本となる語彙が決まっていない国語教育は漢字さえ教えれば十分だとする誤った思い込みがあり、小学校で学習する漢字の学年別配当はどういう語を表す漢字なのかという面から検討し直すべきで、それにより小学校で学ぶ漢字の数を決めるべきである。また、国語の教科書だけでは基本語彙が制限されるため、色々な教科を総合して考えられるべきである。

基本となる語彙が決まっていない点や、色々な教科を総合して考えなければならない等、現実的には決して簡単な事ではありません。しかし、国語のための漢字教育として、語彙という観点から教育漢字を検討するという指摘は傾聴に値するのではないでしょうか？より良い漢字教育の実現には、様々な立場から建設的な意見が出ることが何より重要だと思います。今回の改訂がその第一歩となるでしょうか？

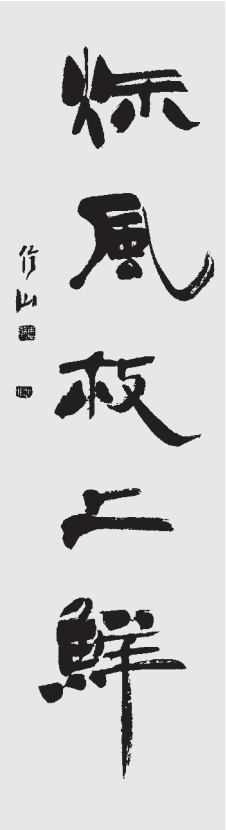
# 書象会通信条幅研究会課題の解説（令和二年八月～十月まで）

## 信山流

楷書的な表現です。

一字一字の構造に、どこにもユルミを見せない確かさがあります。余白が明るく響いています。

全文字を通して横画の平行性を意識します。各文字の中心を垂直に貫通させます。字間は同じ広さに見えるよう文字を配置します。秋霜の句に相応しい清冽な表現を心がけましょう。



## 隷書

変化に富んだ隷書課題です。

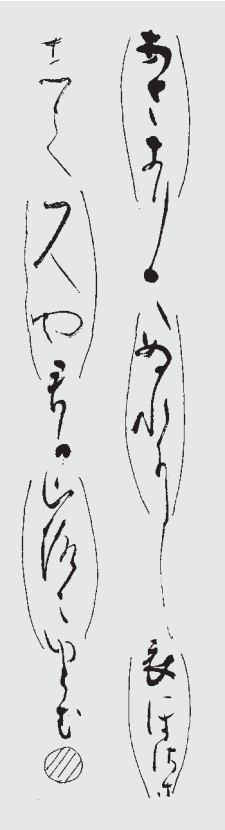
**秋**…偏と旁が左右逆になっていますが、「秋」の異体字です。

**秋・風・枝**

右下方向への波磔はそれぞれ長さ、方向、表情に変化を見せながら単調にならぬよう工夫されています。それらを意識して表現してみましょう。

**上**…画数の少ない文字ですが、最後の横画の「一」を強く書くことによってバランスをとりましょう。

**鮮**…最終画のたて線は逆筆で入り、まがらないように心がけましょう。



## 仮名

・墨色の変化の美しさを表現しましょう。含墨は「あさ…」「衣ほ…」「君が…」で行い、最後は少なめにし、軽く収める。

・「ぬれに（尓）し」と「し（志）て（低）一人や」の渇筆部分は、伸びやかに運筆する。

・お互いの行を意識しながら横への振幅の変化をしっかり捉える。

・二行とも右下方向への流れを意識し、余白の取り方も工夫したい。

# 今月の優秀作品

**〈隷書条幅〉**　評　柳澤　玄嶽

島村霞菖　豊かな線の響きと美しい字形表現見事。

赤羽溥山　微妙な線運動が栄え、中鋒の線質美大佳。

宮田天遥　錬度を深めた線で、迫力を感じる。

上條恵香　等圧で重厚にまとめた気力溢れる作。

藤澤竹虹　空間を的確に捉え、軽快で切れ味あり。

宮寺瑤光　含墨、筆勢ともに美しい作。構成も良。

田上燿楓　正確な運筆とゆったりとした結構良。

高杉景汀　基本に忠実な書きぶりに好感が持てる。

**〈条幅随意〉**　評　二瓶　嶽風

小野壺水　力強い線質で貫通力のある秀作。

大賀霞泉　繊細で優美な表現が印象的で見事。

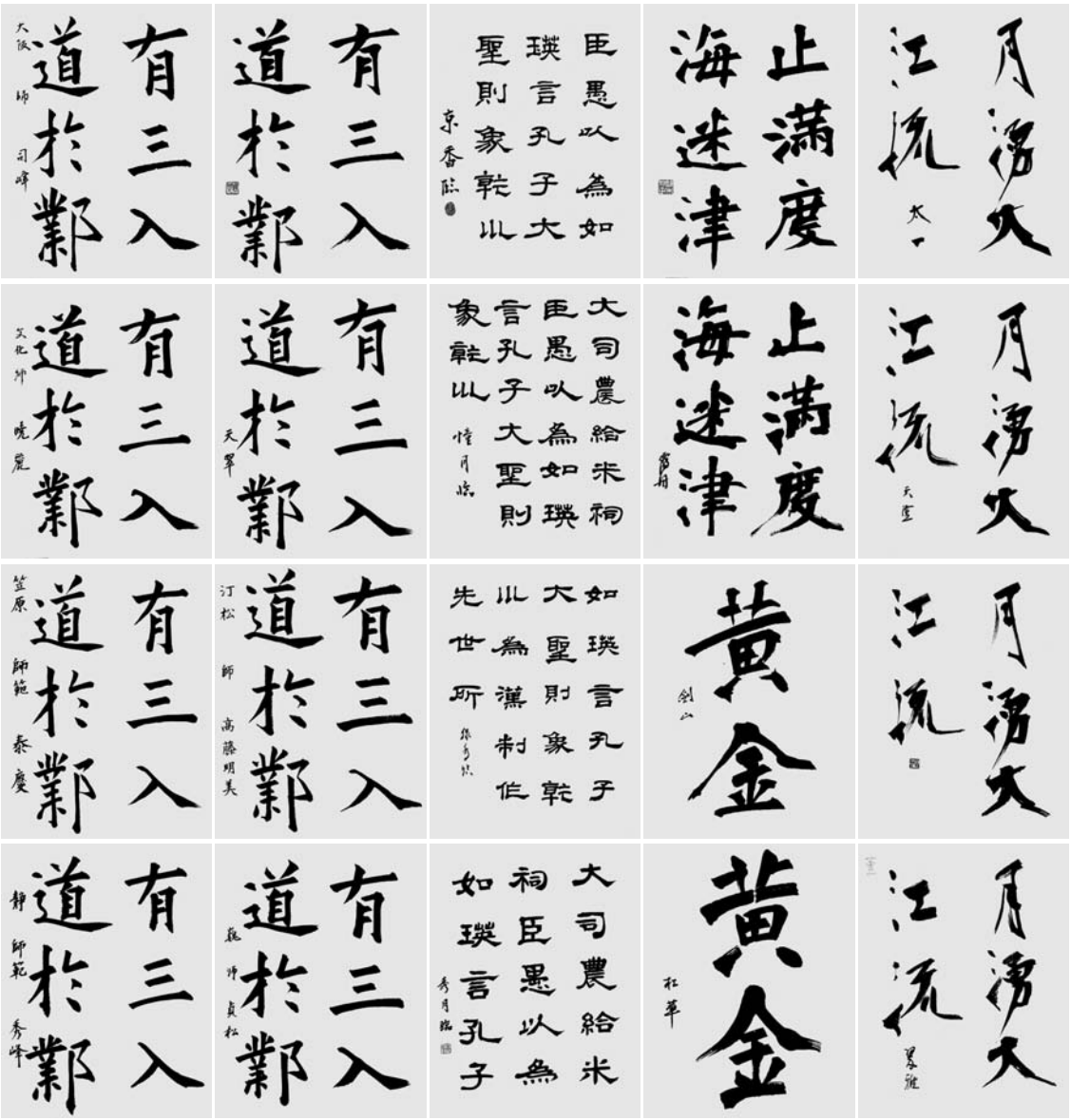
泉澤禾苑　構造が広くスケールの大きな快作。

**〈通信条幅〉**　評　樋口　玄山

岩月彩紅　流れよく、全体感もいい。

湯本香窓　形体把握よし。隷意豊かで沈着。

瀬野照鈴　作意のない澄んだ線が魅力的。



## 基本課題　評　二瓶　嶽風

高橋太一　いきいきと躍動した豊かな線がみごと。
飯田天澄　伸びやかで迷いのない動きが美しい。
佐藤茜沙　歯切れの良い厳しい線質が魅力的。
遠藤翠雅　屈託のない純朴で澄み切った線が良い。

## 研究課題　評　小室　墨汀

鈴木花仙　直線的な運筆で偏旁の組み立て方秀逸。
斉山霞舟　含墨豊かで温かな書風の安定した作。
関澤剱山　文字構造を広く取り接筆部の雅味あり。
布施杠華　伸びやかな線で含墨豊か。構造も広い。

## 古典課題　評　田中　珠光

佐藤京香　古典に忠実に形をよく捉えて書いている。
柄澤憧月　墨量もあり、豊かな線質となっている。
青柳緑水　線質良く、半紙に四行を上手く収めた。
内藤秀月　豊かな墨量で空間のとり方も美事。佳。

## 師範部

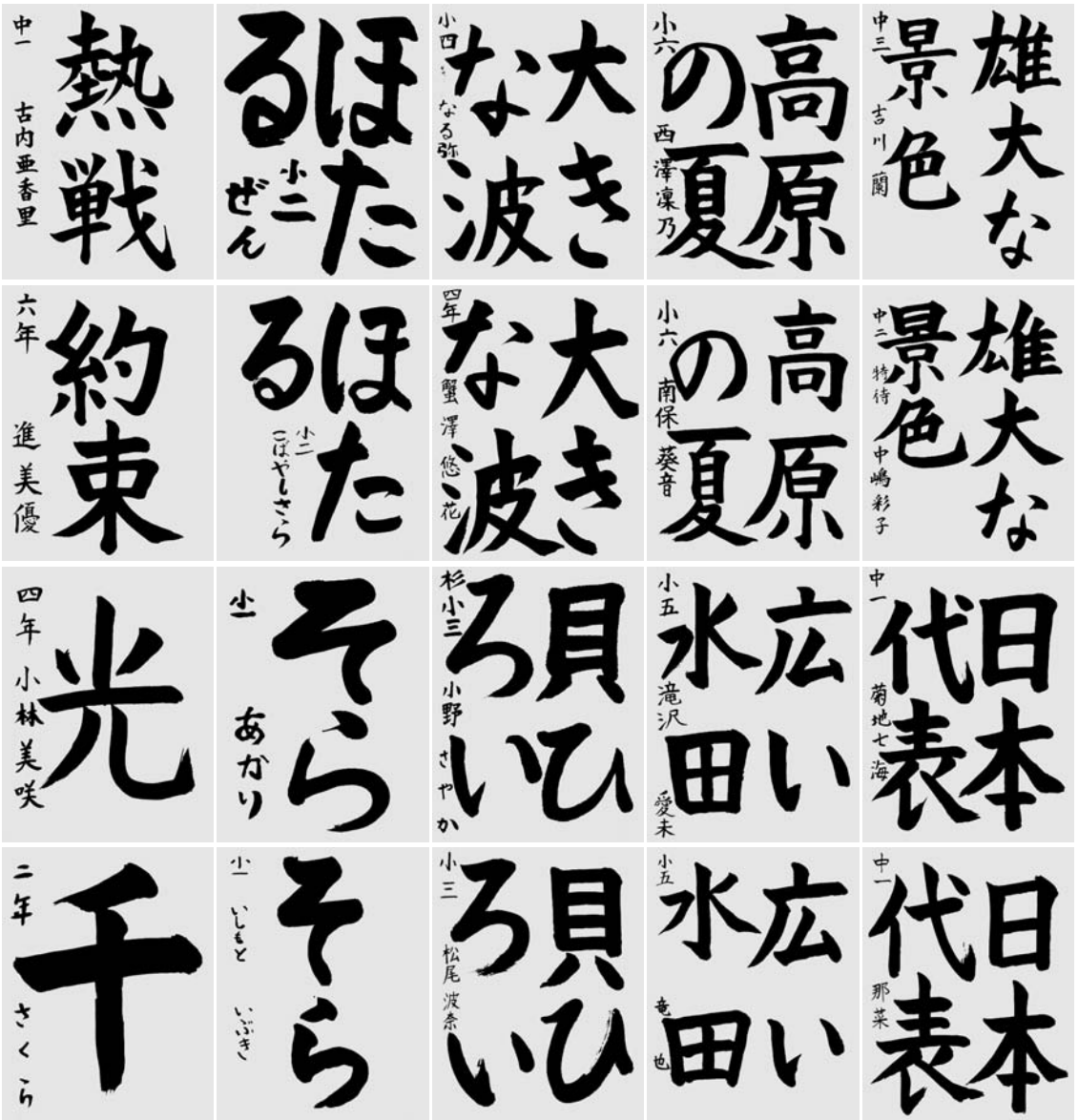
〈楷　書〉　評　山口　啓山

静　翠　墨遣いが巧く格調高き雰囲気あり。
天　翠　端正な点画・構築力の高い造形が見事。
高藤明美　写実性に富み形の安定感が抜群。
貞　松　肉太の線で豪快な運筆が他を圧倒。
司　峰　穂先への集中力が行き届きスキ無し。
暁　麗　穏やかな作風で人柄が伝わる秀作。
泰　慶　お手本に忠実で六文字の調和大変良し。
秀　峰　余分なものが一切無く端然たる作。

香　琳　余白美が充分生かされた爽やかな佳作。
葉　草　一点一画に力強さを感じる気迫の作。
恵　爽　無限大に伸びようとする点画が印象的。
明　桜　全体への配慮よく文字相互が響き合う。
雅　幸　文字の大小長短のリズムを感ず。
竹内なお美　基本に忠実で書への真摯さが伝わる。
秀　麗　含墨充分で独自の世界が展開される。
心　燈　文字構造に余裕があり明快に仕上がった。

〈仮　名〉　評　小渕　石峯

安蒜小映　全体構成良し、小粋にまとめられた佳作。
渋谷静秀　軽快に筆が動いて、伸びやかさ群を抜く。
杉本統華　腕の動き大きく、張りのある曲線みごと。
島田壷峰　爽やかで、清らかな線、流れも良い作品。
小林康渉　線に冴えがあり、骨力を秘めた作品。
井澤梢琴　自然な流れの中に強弱の変化ある作品。
田島涛仙　線に長さを感じる。悠然たる流れも良い。
森村湖亭　各行の流れ、位置、散らしがすばらしい。
小松雅子　側筆がうまく溶け込み、爽やかさが出た。
坂口節苑　さり気なく送筆した香気を含む美しい作。
桑野小琇　洗練された濃淡の妙は、光を放っている。
松村恭月　正確に形を捉え線も伸びやかである。




## 学生部

評 中内 真意

吉川　蘭　起筆よく形も整って大変すばらしい。
中嶋彩子　伸び伸びとした書きっぷりが見事です。
菊地七海　堂々と書き、名前も上手く入れました。
石田那菜　起筆から収筆まで神経のゆき届いた作品。
西澤凜乃　紙面いっぱいに大きく書けて、立派。
南保葵音　伸びやかな線で、形良く書けています。
滝沢愛未　筆使いが上手く、形の取り方も大変良い。
藤崎竜也　素直な線質で、基本点画ができている。
高日なる弥　お手本をよく見て書けましたね。上手。
蟹澤悠花　〝波〟が上手。大きくしっかりかけた。
小野さやか　伸びやかにかけた。この調子で！
松尾波奈　筆使い良く、しっかりした線でかけた。
神田　然　力強く、どうどうと書けました。
小林紗来　一つ一つの形のとり方がじょうずです。
恵面燈里　大きくうまくかけました。なまえもよし。
石本伊吹　ゆっくりとていねいに書けています。

## 半紙随意

評 坂牛 静心

古内亜香里　紙面に美しく字が配置された見事な作品。
進　美優　線質が豊かで、形のバランスが大変良い。
小林美咲　落ちついて形よく書けた。名前も良い。
澤本さくら　どうどうと、りっぱな〝千〟がかけました。

このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

〔楷書〕

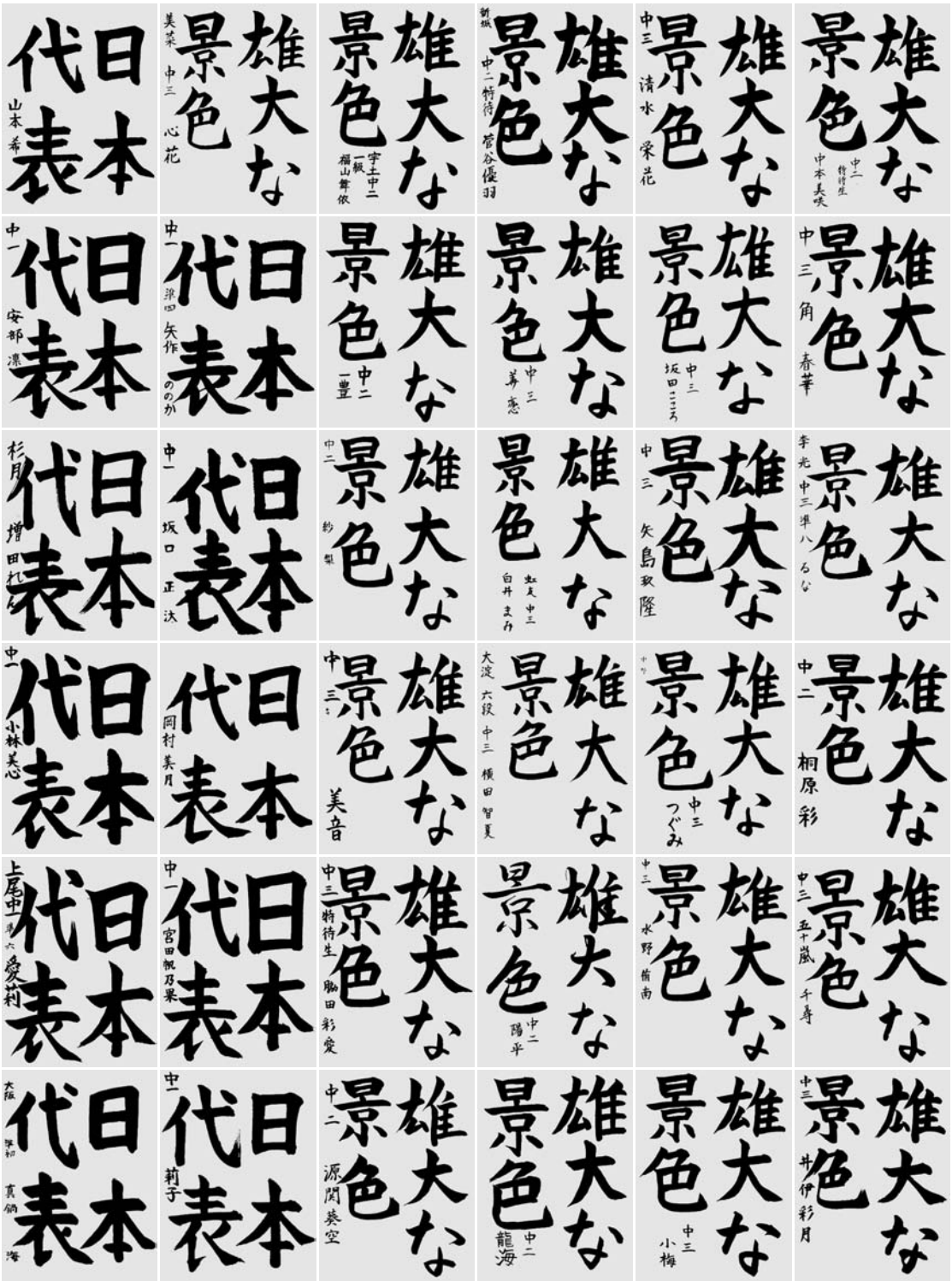
〔段位〕
高風　中本　裕子
玄心　松本　加代子
この　多賀谷　葉子
静　武居　静寿
碩雲　佐藤　芹香
練馬　熊谷　利恵子
麗墨　髙田　倫
柏心　北原　典子
玄樸　北川　深雅
乙訓　永濵　和歩
書集　藤井　和華
小平　岸　千秋
高社　小坂　早希
須坂　関谷　優

〔級位〕
名東　笠野　翔太郎
一路　安楽岡三枝子
大象　牧原　浄美
石峯　浦野　衣美
杉　櫻田　美幸
中央　昼間　瑞希
練馬　兵頭　希子
信大　登内　光
玄黙　金森　涅里
成城　小野奈々葉

〔仮名〕

〔段位〕
高風　小林　真志
須坂　冨澤　智恭
華雪　大久保　華渓
大阪　後藤田翔珠
富貴　宮崎　幾久与
高風　谷川　裕香
秀雪　内野　まどか
一路　森　慶子

〔級位〕
長野　浅沼　清美
杉　石川　友美
承風　尾形　千砂子
中央　昼間　瑞希



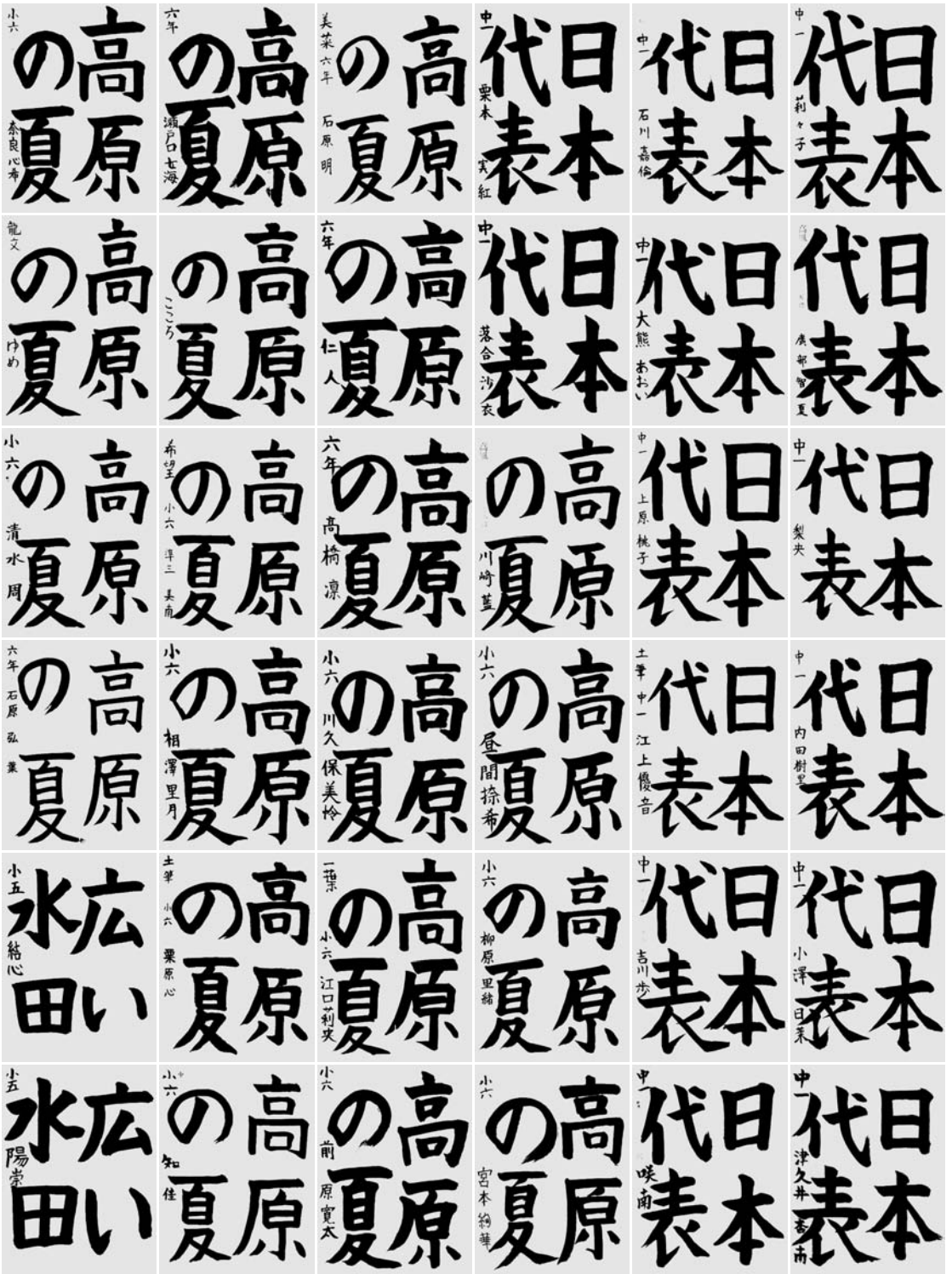

〔毛筆〕

【中二・三】

皓花 中本美咲
虹苑 角春華
李光 山口るな
茅野 桐原彩
有象 五十嵐千尋
美那 井伊彩月
光丘 清水栄花
大象 坂田こころ
硯 矢島玖隆
中野 國津つぐみ
高社 水野侑南
ひま 小久保小梅
新城 菅谷優羽
松戸 竹島華恋
虹友 白井まみ
大淀 横田智夏
たけ 坂本陽平
秀雪 村田龍海
宇土 福山舞依
一絵 鈴木一豊
竹華 紗梨
華雪 笹嶋美音
名東 脇田彩愛
平成 源関葵空
美菜 関口心花

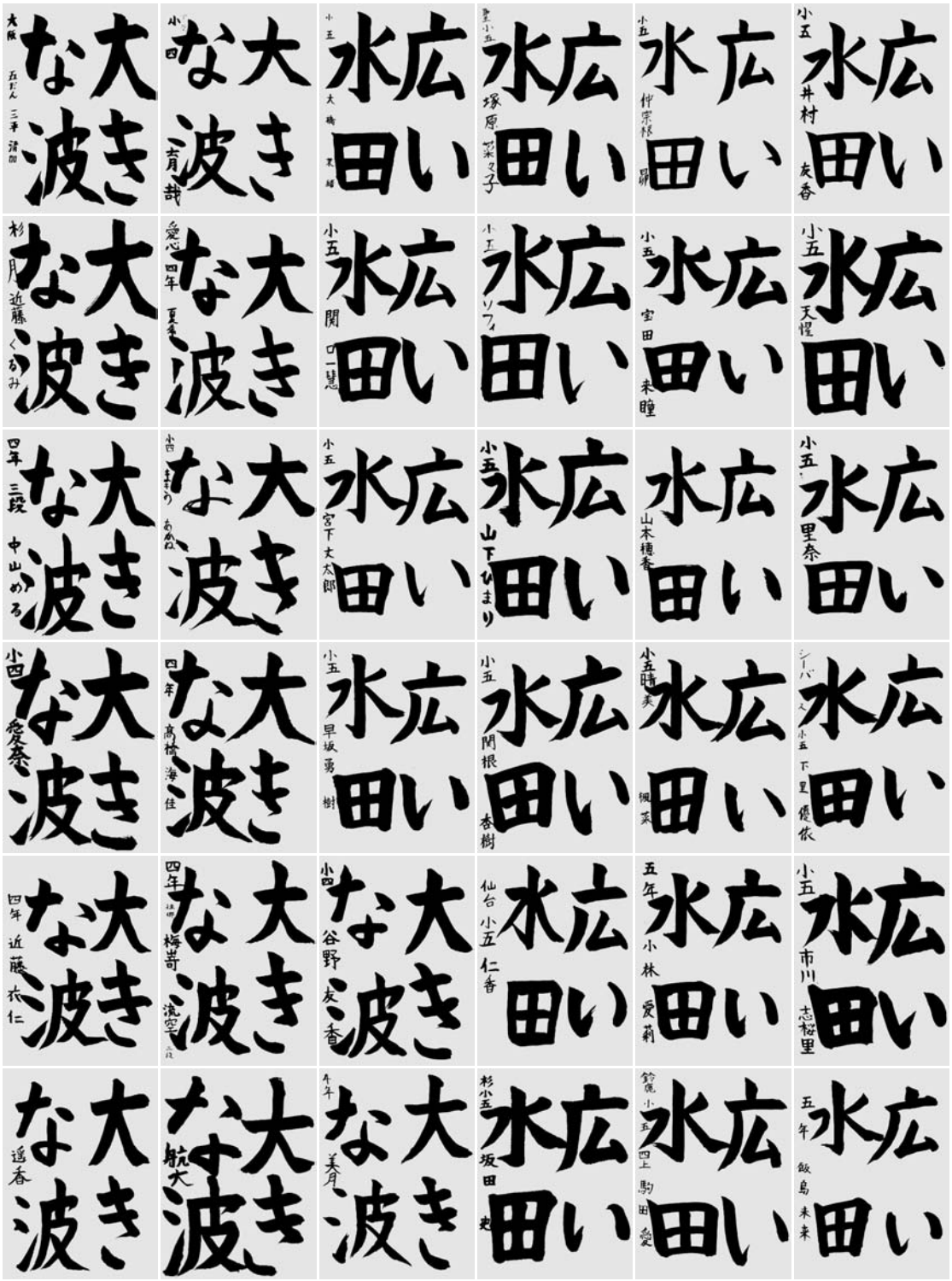
【中一】

折原 矢作ののか
この 坂口正汰
玄樸 岡村美月
玄黙 宮田帆乃果
月 前田莉子
珠紅 山本希
若竹 安部凛
杉月 増田れん
光丘 小林美心
上尾 千田愛莉
大阪 真鍋海




【小六】
山愛　滑川莉々子
高風　廣部智夏
宮地　渡辺梨央
みな　内田樹里
神奈　小澤日菜
練馬　津久井杏南
北府　石川嘉倫
霞墨　大熊あおい
高社　上原桃子
土筆　江上優音
硯扇　吉川歩
華雪　伊藤咲南
若葉　栗本実紅
名東　落合沙衣
高風　川崎藍
中央　昼間捺希
凛心　柳原里緒
青雲　宮本あやか
美菜　石原明
倭　盛仁人
この　高橋凛
有穂　川久保美怜
一葉　江口莉央
右文　前原寛太
宝春　瀬戸口七海
知床　倉澤こころ
希望　増田美南
練馬　相澤里月
土筆　栗原心
中野　田川知佳
硯扇　奈良心希
龍文　古内ゆめ
華雪　清水周
美苑　石原弘葉

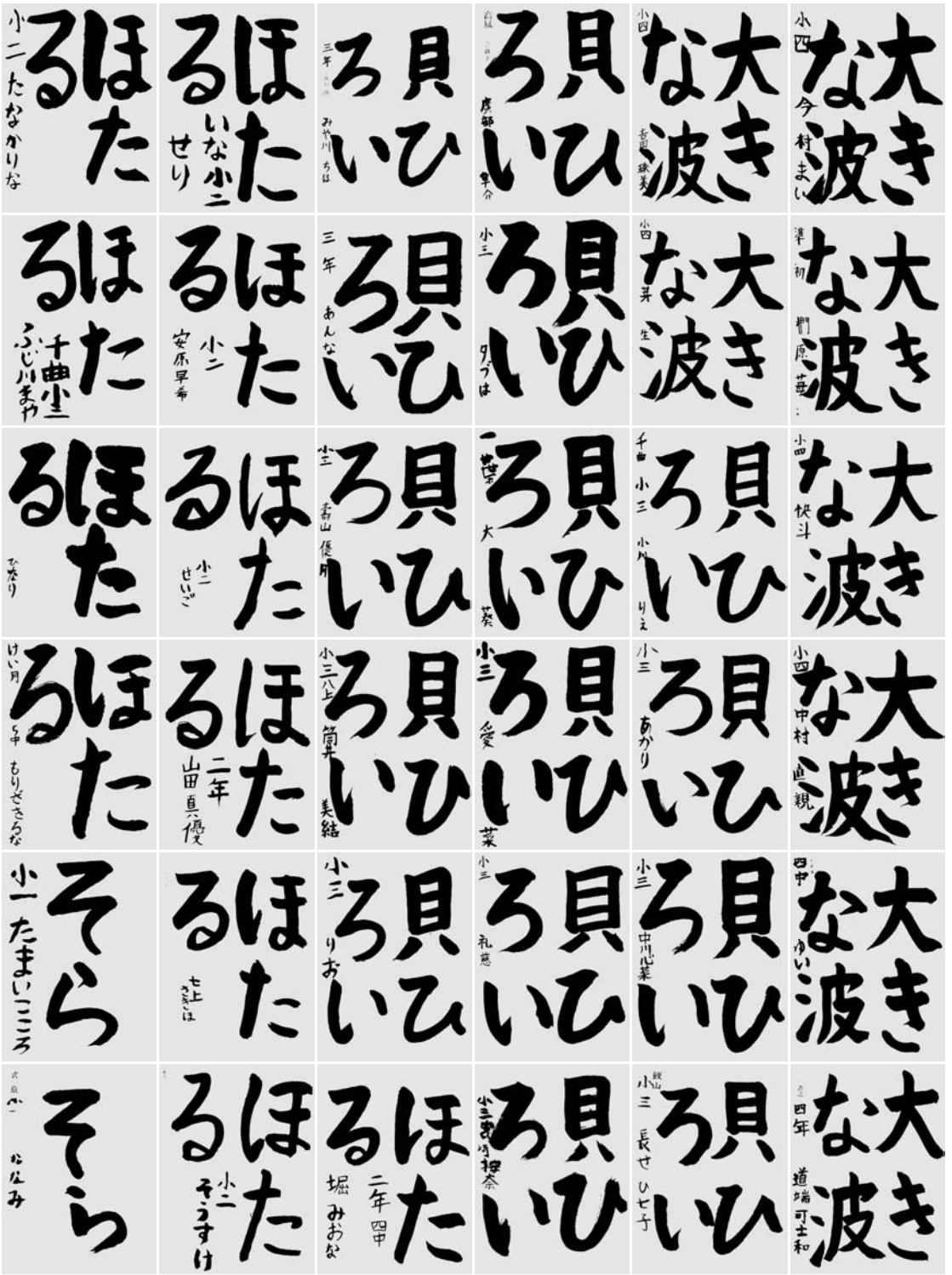
【小五】
平成　白石結心
若松　白土陽崇



承風　井村　友香
名東　大崎　天惺
華雪　河嶋　里奈
シー　下里　優依
個人　市川志桜里
柏心　飯島　未来
若竹　仲宗根　昴
倭　宝田　来瞳
玄樸　山本　穂香
晴美　田中ふうな
湊　小林　愛莉
鈴鹿　駒田　愛
聖　塚原菜々子
山愛　ソ　フィ
練馬　山下ひまり
八潮　関根　杏樹
仙台　山谷　仁香
杉　坂田　史
瑞祥　大橋　茉緒
葉月　関口　一慧
秀雪　宮下丈太郎
房風　早坂　勇樹

【小四】

静翠　谷野　友香
雅　小林　美月
中野　寺島　育哉
愛心　小野寺夏希
蔵　牧野　朱音
硯　髙橋　海佳
往郷　梅嵜　流空
山愛　北地　航大
大阪　三平　清加
杉月　近藤くるみ
皓花　中山　める
一絵　薄井　まな
大田　近藤　衣仁
玄樸　西野　遥香



【小三】
飯田石峯　今村真唯
若松　椚原苺
城彩　三谷快斗
芙二　菅原優衣
書之　道端可士和
可児　吉田珠美
秀雪　小野寺芽生
千曲　小川りえ
有虹　西井あかり
凛心　中川心菜
飯山　長瀬陽七子
高風　廣部隼介
さわ　伊得夕鶴華
一葉　伊藤大葵
花蓮　立花愛菜
若松　原口礼慈
めぐ　宮崎按奈
源創　宮川千穂
この　渡辺杏奈
玄黙　壽山優月
名東　筒井美結
華雪　横田莉央

【小二】
皓花　堀美緒奈
伊奈　上原惺梨
さざ　安原早希
秀雪　岡崎成吾
湊　山田真優
芙二　柏咲穂
華雪　小山湊介
霞墨　田中璃夏
千曲　藤川真綾
唯心　河崎姫音
溪月　森崎るな

【小一】
練馬　玉井心彩
玄嶽　西田七海

古木ハ実くにふさわしく古酒を飲むことふさわしく旧友ハ信ずること宜しく古書ハ読むにふさわしく
成城 梓虹

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
梨子田 茜 飯山 一年 楽四

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
有象 牧原 史佳

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
名前 加賀谷心絆 八潮 支部 六年 功段

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
名前 岩下 真結 倭 支部 六年 漢七級

もうどう犬は、目の不自由な人が、町を安全に歩く助けをします。
名前 尾鷲 日向 かぼく支部 四年 二級

スーパーで、おいしそうなももをかいました。
名前 才津 那奈 なまえ 木 支部 二年 6ぎょう

古木ハ実くにふさわしく古酒を飲むことふさわしく旧友ハ信ずること宜しく古書ハ読むにふさわしく
長野 映静

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
上原 彩聖 高社 中三 準七

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
大田中三 藤田 陽菜

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
名前 三次 芽依 正桂 支部 六年 五段

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
名前 渡部 りこ 倭 支部 五年 二級

もうどう犬は、目の不自由な人が、町を安全に歩く助けをします。
名前 宮沢 茉央 海 支部 二年 2級

スーパーで、おいしそうなももをかいました。
名前 華雪 ひかこうせい なまえ 一 支部 一年 1ぎょう

志気の剛強なる者のために、努力しかつ思索する場所としたい。
柳田國男のことば 成城 由美

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
光丘 中三 伊藤 光

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
おかや支部 一年 初段 石川 鼓乃

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
名前 大竹 莉緒 高社 六年 準三級

もうどう犬は、目の不自由な人が、町を安全に歩く助けをします。
名前 市之瀬 莉佳 書之 支部 四年 初級

スーパーで、おいしそうなももをかいました。
名前 鮎澤 日咲乃 海 支部 二年 2級

スーパーで、おいしそうなももをかいました。
名前 笠原 梨緒 にいがた支部 二年 8ぎょう なまえ かさはら りお

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
名東 中二四段 長谷川 優

歴史には、成功しないと知りつつ命をかけて筋を通した、無名の人達が埋もれている。
秋山 芽奈 凛心 中三 準七

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
書之 支部 六年 漢五級 道端 柚

目標を達成するには全力で取り組む以外に方法はない。それには近道はない。
名前 高森 結萌 玄黙 支部 五年 取

〔硬筆〕

【一般】
信大 荻原 梓虹
長野 西澤 映静
成城 中村 由美

【中学】
名東 長谷川 優
飯山 梨子田 茜
高社 上原 彩聖
光丘 伊藤 光
凛心 秋山 芽奈
有象 牧原 史佳
大田 藤田 陽菜
みな 石川 鼓乃

【小五・六】
八潮 加賀谷心絆
正桂 三次 めい
石峯 大竹 莉緒
玄黙 高森 結萌
倭 岩下 真結

【小三・四】
龍文 市之瀬莉佳
霞墨 尾鷲 日向
若宮 宮澤 茉央

【小一・二】
湊 鮎澤日咲乃
才津 那奈
杉 高日 煌世
新潟 笠原 梨緒

第778回

# 競書成績

□写真版
☆秀　作
○昇　級

## 師範

| | | |

| | | |

| | | |

磯辺 葉栄
茜沙 大泉 萌泉 寿子 昭敬 玄黙 章泉 神奈 景虹 雨鈴 愛峰 〃 〃 〃 〃 〃 書祥 集山 サン美 〃舟 江翠 敦子 〃恵 東陽 愛江 〃絵 〃里 藤花 花花 翠風 光雪 大手 東根 紅桐 珠生 知子 〃悠 〃子 翔玉 〃雲 皓皓 花花 游泉 墨穂 中梢 野華 〃鈴 〃照 〃白 〃津 〃美 〃那 〃文 〃化 〃小 〃光 〃光 〃光 〃小 〃照 〃霽 〃峰 〃節 〃琇 〃霞 〃恵 〃翠 〃葉 〃玉 〃嶽 〃采 〃秀 〃涛 〃泉 〃翠 〃子 〃紀 〃明 〃禮 〃絢 〃邦 〃信 〃楓 〃楓 〃楓 京都 〃典 〃菁 〃翠 〃成 〃有 〃文 〃化 〃暁 〃麗 〃有 〃美 〃爽 〃美 〃由 〃恵 〃恵 〃美 〃子 〃子 〃紀 〃子 〃子 〃子

秦野 半栗 珠紅悠 恒吉櫻菜 皆花腰儀 坂本怜 大翠山 長房風 信大 飯山 掘静間 佐藤幸子 林宮澤帆 川口水 横二 秀雪 〃 〃 瑞祥 中野 佐藤華 湯本瑠 小原昭 末田幹 内野ま 華雪 〃 〃 〃 中野 瑞祥 さわ 玄黙 〃 四谷 石川禮 藤井理 漆谷勝 阿部紀 一丸す 金井笑 佐藤未 翠白 中嶋志 門脇華 手塚越 石井千 森田由 豊田芽 畑中佑 長谷勇 豊田真 藤平朱 宮屋緑 倭 杉 練馬 華雪 月之内 竹彩 濱名千 手塚希 成城 上尾野 北府 硯扇 暁月 珠悠 千曲 横二 斉藤蕙 青木直 奥手璃 八戸 下枝峯 小嶋 加藤穂 南紗英 小野彩 竹之内 富貴 笠原 大阪 華雪 杉崎翠 土屋恵 後藤由 小林 高橋眞 麗墨□ 練馬□ 熊谷利 佐藤芹 **準四段** 磯辺 長野 大象 華雪 〃 〃 〃 中野 瑞祥 さわ 玄黙 〃 四谷 大阪 若竹 小平 〃 〃 〃 船橋 霞墨 静生 美大阪 雅 〃 龍文 地宮 飯山 大淀 八南 書泉 一絵 宗像キ 道喜正 新保利 須藤香 高田 倫 森田由 豊田芽 畑中佑 長谷勇 豊田真 藤平朱 宮屋緑 倭 杉 練馬 華雪 月之内 竹彩 濱名千 暁月 珠悠 千曲 横二 斉藤蕙 青木直 奥手璃 八戸 下枝峯 小嶋 加藤穂 南紗英 小野彩 竹之内 富貴 笠原 大阪 華雪 杉崎翠 土屋恵 後藤由 小林 高橋眞 麗墨□ 練馬□ 熊谷利 佐藤芹 磯辺 長野 大象 華雪 〃 〃 〃 中野 瑞祥 さわ 玄黙 〃 四谷 美苑 倭 玄燿 小平 潮 〃 〃 〃 笠原 勝木 長翠 優生 若松 八淀 書泉 一絵 宗像キ 道喜正 新保利 須藤香 高田 倫 森田由 豊田芽 畑中佑 長谷勇 豊田真 藤平朱 宮屋緑 倭 杉 練馬 華雪 月之内 竹彩 濱名千 暁月 珠悠 千曲 横二 斉藤蕙 青木直 奥手璃 八戸 下枝峯 小嶋 加藤穂 南紗英 小野彩 竹之内 富貴 笠原 大阪 華雪 杉崎翠 土屋恵 後藤由 小林 高橋眞 麗墨□ 練馬□ 熊谷利 佐藤芹 磯辺 長野 大象 華雪 〃 〃 〃 中野 瑞祥 さわ 玄黙 〃 四谷 花雲 倭 玄燿 小平 潮 〃 〃 〃 笠原 勝木 長翠 優生 若松 八淀 書泉 一絵 宗像キ 道喜正 新保利 須藤香 高田 倫 森田由 豊田芽 畑中佑 長谷勇 豊田真 藤平朱 宮屋緑 倭 杉 練馬 華雪 月之内 竹彩 濱名千 暁月 珠悠 千曲 横二 斉藤蕙 青木直 奥手璃 八戸 下枝峯 小嶋 加藤穂 南紗英 小野彩 竹之内 富貴 笠原 大阪 華雪 杉崎翠 土屋恵 後藤由 小林 高橋眞 麗墨□ 練馬□ 熊谷利 佐藤芹 磯辺 長野 大象 華雪 〃 〃 〃 中野 瑞祥 さわ 玄黙 〃 四谷 寺澤弘 千葉美 桜井法 岸野澄 倉澄子 唐澤日 牛山真 手塚麻 後部恭 渡辺豊 酒井信 安藤楓 長谷川 中條正 宇田川 上久保 豊田茉 田鍋隆 江戸恵 下枝峯 豪 永田桃 児玉利 小暮華 林照子 蛭川愛 漆谷綾 林梨香 森詩音 細田真 スミス 高杉景 猿田朱 奥崎と 大塚光 尾崎和 一枝 横倉源 肥田来 常田彗 清田真 佐々木 服部桃 山田栄 松下智 静宮 高風 華雪 八潮 東根 文化 八戸 〃 船橋 若竹 〃 一葉 右文 石峯 横二 書之 久喜 光丘 高風 信大 玄楼 富貴 玄黙 神龍 水代 玄心 名東 〃 中野 信大 〃 ひま 書泉 〃 〃 〃 秀雪 横二 土筆 飯珠 中勢 柏芳 榮森 〃 光丘 北府 大阪 若宮 清水 鈴木心 小林陽 児玉寛 寺脇浩 小笠原 中村喜 工藤千 皆川恵 根岸涼 澤村琴 梅崎哲 赤澤峯 関戸結 浦田裕 ☆城 ☆城 ☆杉 ☆杉 北川深 波多野 礼山 押見広 柴田 成田陽 大津彩 田中眞 古林福 小林史 伊藤均 廣瀬俊 百瀬ま 鎌上小 里川浩 中西彩 中西美 佐藤江 山崎ひ 山崎葉 津田恭 浦田桂 竹内芳 碧空 文野末 高橋裕 小島夢 廣中鶴 増原東 佐藤里 高社 小 中 大阪 神龍 瀬戸 秀雪 宝春 東光 光丘 北府 高風 倭 松 富士 笠原 四谷 船橋 小平 大阪 玄楼 光丘 書集 ☆岸 ☆笠 ☆岸 乙訓 ☆永 ☆濱 ☆和 **二段** 八潮 須坂 〃 葉月 横二 土筆 大淀 千曲 赤千 曲 榊森 柏芳 長寿 志摩 長野 ☆湯 本恵 ☆藤 井和 古田 桜子 岩崎 和 松尾朋 吉川眞 武下由 秀雪 小道愛 飯田 書集 久喜 奥光 本城 山 友野 鍋島誠 北藤宗 中村成 長濱孔 加藤こ 安藤ひ 倉嶋ひ 大和郁 柳澤千 笠原芽 落合良 大阪 玄楼 ☆和 ☆笠 ☆原 玄菜 光丘 晴美 優生 瀬戸 東根 皓花 榊森 北府 松嶋海 妹尾睦 岡本紗 北澤博 片川精 早川香 平野夏 佐藤真 安部美 林能活 渡辺琇 田野名 工藤津 唐津由 宮島節 松尾 吉川下 小道愛 間庭末 奥山 本城 友野 鍋島誠 北藤宗 中村成 長濱孔 加藤こ 安藤ひ 倉嶋ひ 大和郁 柳澤千 笠原芽 落合良 大阪 玄楼 ☆和 ☆笠 ☆原 玄菜 光丘 晴美 優生 瀬戸 東根 皓花 榊森 北府 松嶋海 妹尾睦 岡本紗 北澤博 片川精 早川香 平野夏 佐藤真 安部美 林能活 渡辺琇 田野名 工藤津 唐津由 宮島節 高社 小 中 大阪 神龍 瀬戸 秀雪 宝春 東光 光丘 北府 高風 倭 松 富士 笠原 四谷 船橋 小平 大阪 玄楼 光丘 書集 ☆岸 ☆笠 ☆岸 乙訓 ☆永 ☆濱 ☆和 **二段** 八潮 須坂 〃 葉月 横二 土筆 大淀 千曲 赤千 曲 榊森 柏芳 長寿 志摩 長野 ☆湯 本恵 ☆藤 井和 古田 桜子 岩崎 和 松尾朋 吉川眞 武下由 秀雪 小道愛 飯田 書集 久喜 奥光 本城 山

## 仮名

### 五段

高風□小林真
西吉田富
梅友柏崎と
静山今井秀
蒲田染谷浩
玄機穴原義
八潮仁野賀
光丘友野和
高風唐川哲
北府嵐翠
〃吉富慶
〃長寿
〃李光
〃蒲田
〃幸
〃柴寿雅
〃丸山洋
杉松本佳
静士鳳
〃国府
〃葉月
〃村石愛
〃山本春
〃恒吉
〃山本伊
〃吉村珠
〃榎本淳
〃川鍋麻
〃志摩
〃大阪
〃新城
〃宍戸羌
〃田中彰
〃熊野珠
〃珠紅
〃林珠怜
〃北府
〃田中満
〃翠
〃中野
〃中嶋志
〃小渕千
〃宮澤帆
〃佑谷美
〃牛丸和
〃松田司
〃吉田煌
〃長南玉
〃清田晶
〃谷遥華
〃下枝峯
〃中川美
〃岸野朱
〃藤井典
〃上澄
〃高風
〃長野
〃静
〃紅竹
〃長翠
〃大阪□後藤田
〃準四段
〃竹華
〃笠原
〃若竹
〃四谷
〃真石川禮
〃石井和
〃中條正
〃下垣美
〃齋木祐
〃羽部龍
〃柏芳
〃華雪
〃高風
〃大象
〃高風
〃大阪
〃八戸
〃水代
〃柏心
〃大阪
〃笠原
〃光丘
〃静
〃武居
〃蒲田
〃六波羅
〃溪
〃宮川
〃横二
〃信大
〃横二
〃和
〃雅
〃横
〃中
〃中野
〃中
〃笠原
〃牛
〃中
〃中
〃中

〃 阿部な
須坂 高橋大
承風 大村福
杉和賀井
笠原 齊藤亜
磯辺 平野秀
若宮 三井け
東根 犬飼尚
若竹 塩川優
平成 源関葵
仙台 高橋咲
龍文 石田小
玄樸 南賢成

**五段 硬筆**

新城 彩香
華雪 めぐみ
若松 加藤昌
〃 栗田葉
北府 小野内
サン 松田眞
大阪 熊野珠
野辺 田中満
之翠 榎本淳
雅染 雅幸
雅雪 杉
李光 游墨
京子 〃
清永雅 〃
菅原碧 〃
石峯 玄樸
〃 明光
聖 皓花 門脇華
植原浩 長野□美
美羽 半田菜 林愛友
和 皓悠 松本梨 坂野萌
聖 西村奈
那 スミス 勝木
美 勝又瑞
名東 松田司
名東 小中笑
名東 神谷萌
名東 高橋美
名東 木華
名東 真花
名東 翔孔
名東 金子千
名東 福田九
名東 濱田珠
名東 田部恭
名東 南澤亜
名東 酒井尚
名東 晟秀
名東 奥手璃
名東 峰弦
名東 一糸ひ
名東 原敬二
名東 武下由
名東 蛭川愛
名東 知真
名東 晴美
名東 松代
名東 東光
名東 宮山友
名東 ふみえ
名東 田島江
名東 浦野衣
名東 鳥井優
名東 関戸結
名東 中畑麻
名東 竹下恵
名東 後藤田
名東 大野珠
名東 四谷
名東 小平
名東 右樣
名東 斉木祐
名東 華輝
名東 土屋恵
名東 美生
名東 茅野暁
名東 船橋冠
名東 大橋峻
名東 大阪泉
名東 光瑛
名東 大池怜
名東 杉幸
名東 崎翠
名東 長野峰
名東 長真孔
名東 高橋裕
名東 中村成
名東 阿部紀
名東 林梨香
名東 新城渡辺晴
文化☆宗玉栄 大阪☆爽節

**準三段**

石峯☆唐津由
織戸晨
上尾☆長谷勇
秀雪☆横倉源
一葉 若松 華雪
大阪 北府
高社 花雲
華雪 若竹
安部ひ 渡辺歩
工藤千 藤井理
奥崎と 中孤
藤森皓
林悠喜
大津伸
名東 暁月
四谷 富貴
船橋 森 湊
榊 桜
飯田 宇
浦田桂
浦田恵
田辺恵
宮山友
ふみえ
小口雅
笠原 久恵
船橋 出口陽
前田喜
妹尾睦
嶺 真
游墨 真
光丘 聖
〃 村崎葉
〃 小島夢
〃 北府
〃 聖 麗墨
〃 若松山
〃 飯山
〃 若宮
〃 若竹
〃 皆川恵
〃 晃
〃 長野
〃 有穂
〃 上尾
〃 優
〃 照澤
〃 石峯
〃 秀雪
〃 葉月
〃 名東
〃 玄黙
〃 高社
〃 吉浦
〃 上野
〃 福ほ
〃 五
〃 山田
〃 小野聡
〃 敏
〃 松本
〃 奈子
〃 阪田容
〃 石峯
〃 秀雪
〃 月
〃 名東
〃 山
〃 田
〃 純
〃 崎
〃 田
〃 和
〃 富貴
〃 船橋
〃 工藤瓢
〃 波多野
〃 白崎き
〃 大森鬼
〃 白井衣
〃 鹿島末
〃 壷登
〃 間庭末
〃 久喜
〃 房風
〃 小平
〃 石峯
〃 鈴木捷
〃 松代
〃 石峯
〃 若松
〃 佐藤真
〃 佐藤
〃 川島実
〃 宮山
〃 田辺
〃 鳥井
〃 関戸
〃 鹿島
〃 木地
〃 菊地
〃 山崎
〃 小島
〃 村松
〃 崎葉
〃 須田
〃 文野
〃 小暮
〃 佐藤
〃 増原
〃 伊藤
〃 吉川
〃 大津
〃 中村
〃 今浪
〃 中西
〃 平松
〃 関戸
〃 須永
〃 木地
〃 真
〃 唯心
〃 書之
〃 秀雪
〃 名東
〃 聖
〃 北府
〃 若松
〃 飯山
〃 麗墨
〃 ☆門倉奈
〃 ☆常田彗
〃 ☆内野ま
〃 ☆鈴木秀
〃 ☆小坂早
〃 ☆水野彩
〃 ☆松井佑
〃 ☆川島実
〃 ☆佐藤真
〃 水代
〃 皆花
〃 玄黙
〃 珠悠
〃 秀雪
〃 皆花
〃 優生
〃 水嶋有
〃 水野
〃 東陽
〃 紅竹
〃 船橋
〃 大手
〃 龍文
〃 東光
〃 珠悠
〃 綾華
〃 唯心
〃 秀雪
〃 書之
〃 茜
〃 皆花
〃 大坪千
〃 栗田果
〃 柳岡奈
〃 里川彩
〃 古本恵
〃 小渕千
〃 玉井杏
〃 照和
〃 大場
〃 石田小
〃 藤田美
〃 井田愛
〃 湯本春
〃 青木暉
〃 吉野舜
〃 羽田圭
〃 加藤広
〃 須田歩
〃 光丘
〃 若松
〃 倭
〃 華雪
〃 有象
〃 石峯

**2級**

〃 瀬戸
〃 名東
〃 大阪
〃 華吉
〃 中央
〃 花雲
〃 若竹
〃 榊森
〃 東光
〃 北府
〃 秀雪
〃 中西
〃 彩
〃 高士
〃 大矢
〃 優
〃 富士
〃 榊森
〃 碧
〃 西
〃 空
〃 池川琴
〃 奥山
〃 東光
〃 光丘
〃 玄黙
〃 水野
〃 廣谷真
〃 東岡胡
〃 若松
〃 長野
〃 高社
〃 四谷
〃 蔵
〃 千曲
〃 湊
〃 石峯
〃 秀雪
〃 茅野
〃 小光○
〃 北府
〃 名東
〃 若竹
〃 成城
〃 小林楓
〃 西晴
〃 大
〃 井上桃
〃 高野
〃 日
〃 北府
〃 秀雪
〃 名東
〃 大阪
〃 上尾
〃 名東
〃 笠野翔
〃 畔柳智
〃 諏訪内
〃 倉里
〃 小
〃 大角地
〃 小林有
〃 岩立明
〃 雅
〃 片山
〃 小杉佑
〃 倭
〃 ○森本真
〃 美濃部
〃 川口菜
〃 瀬戸
〃 藤沢和
〃 櫛原文
〃 石澤遥
〃 海津珠
〃 菊地麻
〃 羽賀瑛
〃 四谷娥
〃 坂本幹
〃 寺澤三
〃 ○中谷理
〃 ○西彩
〃 秀雪○
〃 北府○
〃 ○奥山る
〃 ○川琴
〃 ○井茜
〃 ○玄樸
〃 ○優生
〃 ○聖
〃 ○宮下彗
〃 ○佐藤矩
〃 ○長濱朗
〃 ○勝間萌
〃 ○南賢成
〃 ○澤井麻
〃 ○風間静
〃 ○野長琉
〃 ○城彩○
〃 ○大阪○
〃 ○村田連
〃 ○緒方純
〃 ○山崎莉
〃 ○閏間千
〃 ○東出先
〃 ○照澤
〃 ○秀雪
〃 ○希望
〃 ○松代
〃 ○北府
〃 ○希望
〃 ○船橋
〃 ○玄黙
〃 ○高社
〃 ○光丘
〃 ○華雪
〃 ○成城
〃 ○龍文
〃 ○希望
〃 ○愛
〃 ○倭
〃 ○玄樸
〃 ○高社
〃 ○華雪
〃 ○国府
〃 ○松戸
〃 ○華雪
〃 ○高社
〃 ○みな
〃 ○りん
〃 ○この
〃 ○高社
〃 ○光丘
〃 ○成城
〃 ○名東
〃 ○みな
〃 ○静
〃 ○翠

**3級**

大象○
和成○
○齋藤百
○川武靖
○杠合る
○河合野
○竹原千
○佐藤穂
○古澤矩
○希望
○北府
○佐藤萌
○丸山遥
○近藤愛
○小林直
○閏間千
○山崎莉
○東出先
○瀬戸
○成城
○明
○加藤修
○上尾
○玄樸
○齋藤百
○八潮□古内亜
○秋田輝
○金井亜
○才木優
○名東
○倭
○この
○西村董
○河野成
○高橋茉
○小林音
○畑野心
○九郷桃
○倭
○この
○新城
○玄樸
○山本穂
○平居み
○岩野実
○上林千
○多賀彩
○石橋彩
○西澤凜
○吉川の
○小林愛
○河野敦
○杉田海
○大柿礼
○大槻志
○池邊美
○倭
○倭
○倭

愛心・上尾・朝日・飯田・飯山・一絵・一葉・伊奈・宇土・往郷・大泉・大阪・大田・大淀・華雪・神奈川・霞墨・花蓮会・北府・希望

4中○豊永彩
7下○古屋果
8上○齊藤希
8下○鈴木愛

〈硬筆〉

初段☆小野夏
8中○小林叶
特1○峯村若
準三☆猪俣結
準四□梨子田
☆酒井萌
準初佐藤茉

〈硬筆〉

7上○野田あ
5下○高松采
5上猪俣啓
3上○峯村若
3中準初川口眞
準二山崎翔
準四酒井萌
8下○前田瑠
1下○荒木陵
3上塚田琥
2級○宮澤柚
5段宮澤真
準初高松千
六段梨子田
準二石田優
準八小幡美
〃西山彩
二段☆古澤梨
準三☆猪俣結
準五岩井り
準八秋山華

**朝日支部**

特待竹村柑
準六□千田愛
準七佐藤舞
七段轟雪乃
準八森ひか

〈毛筆〉

**上尾支部**

2級荒井沙
五段赤澤李
三段☆小野澤
二段☆于梦琪
〃☆島田帆
三段☆猪俣結
三段☆古澤梨
三段☆内川美
特待鈴木理
準八佐藤詩
準五虹大
準五久保
準四佐藤稜
三段☆鈴木一
〃薄井香
〃梅田あ
〃薄井光
準七集真
準六西野あ
準七小林美
準六四段
準四加瑞
5上○田中理
四段上田悠
〃☆鈴木ひ
準二村松春
準初今村麻
準六坪井な
準六鈴木雄
四段鈴木晃
〃☆江口莉
準初佐藤茉
準八秋山龍
準三秋山龍
4中岩下樹
5中横倉也
6上○照井雅

**飯田支部**

準七小林美
準六真
四段上田沙
準七集
準七真
準初川口眞
準二山崎翔
準四酒井萌
8下○前田瑠
1下○荒木陵
3上塚田琥
2級○宮澤柚
5段宮澤真
準初高松千
六段梨子田
準二石田優
準八小幡美
〃西山彩
二段☆古澤梨
準三☆猪俣結
準五岩井り
特待鈴木理
準八佐藤詩
〃梅田あ
〃薄井香
準七集
準七真
準四佐藤稜
三段☆鈴木一
〃薄井光
準七集
準六西野あ
準六鈴木雄
四段鈴木晃

**久喜支部**

準八 池田心 六段 友近柚 五段 永冨文 五段 加藤昂 稲葉絢 田所龍 8級 中村楓 遥香 前野鈴 六段 廣谷美 特待□ 中本真由 準八 田口寧 準八 小田悠 大坪丈 大印志 大印宗 高森結 中上明 中上に 畑中美 酒井萌 道上実 岩村凛 戸部華 富岡遥 山本沙 増田真 坂田祐 清水幸 清水麻 大矢有 大坪和 今井和 川崎野 小林音 石橋彩 西村董 新澤泰 蟻川美 瀬戸啓 荒井那 多賀谷 清田舞 稲原千 村上祐 浜野ひ 浜野そ 伊得夕 黒田清 矢野に 小笠原 曽我部 東郷瀬 夏堀漱 西尾み 四段 羽田有 阪本行 内山愛 増島結 智江 小筆舞 皆本祐 篠田葉 鹿島奏 清治万 松本彩 若菜遥 鈴木礼 五段 小林咲 近藤菜 白井乃 濱端彩 大森由 特待 大西希 **志摩支部** 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 四段 近藤百 準初 出口絵 四段 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **この葉支部** 四段 菊池真 坂本由 坂本暖 準初 伊原拓 準二 小松暖 三段 菊池真 準五 佐々木 西尾由 準七 加藤輪 野木亮 柚村友 小山翔 準四 森田乃 三段 野村み 二段 田上穂 特1 ソフィ 準初 倉家杏 特1 加藤紬 柚村彩 5中 贄寿美 4下 野崎柚 準二 北地航 6上 中田大 6上 松岡咲 準六 大橋実 準五 熊野枝 準八 濱端唯 8級 上條陽 **志摩支部** 特待 大西希 五段 小林咲 四段 近藤百 準初 出口絵 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 五段 鈴木礼 四段 松本彩 準四 清治万 準三 吉川汐 準 鹿島奏 準 篠田葉 準 皆本祐 準二 宮下丈 準 田村来 準 奥山り 6中 阪田奈 5中 城山暖 4下 近藤そ 4中 谷口美 4上 小林奈 準初 出口絵 準初 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **さざなみ支部** 準五 小松暖 準三 坂本由 8下 石田こ 8中 石田こ 5上 加藤颯 5上 加藤颯 4中 贄寿美 準五 柚村彩 特1 加藤紬 準初 倉家杏 6上 中田大 6上 松岡咲 準六 大橋実 特1 ソフィ 準四 森田乃 準五 柚村友 三段 野村み 二段 田上穂 準初 伊原拓 準二 小松暖 準七 加藤輪 野木亮 準五 佐々木 三段 菊池真 四段 西尾由 **杉月支部** 準八 濱端唯 準五 熊野枝 準六 大橋実 準六 大橋実 8級 上條陽 **志摩支部** 特待 大西希 五段 小林咲 四段 近藤百 準初 出口絵 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 五段 鈴木礼 四段 松本彩 準四 清治万 準三 吉川汐 準 鹿島奏 準 篠田葉 準 皆本祐 準二 宮下丈 準 田村来 準 奥山り 6中 阪田奈 5中 城山暖 4下 近藤そ 4中 谷口美 4上 小林奈 準初 出口絵 準初 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **さわらび支部** 準五 小松暖 準三 坂本由 8下 石田こ 8中 石田こ 5上 加藤颯 5上 加藤颯 4中 贄寿美 準五 柚村彩 特1 加藤紬 準初 倉家杏 6上 中田大 6上 松岡咲 準六 大橋実 特1 ソフィ 準四 森田乃 準五 柚村友 三段 野村み 二段 田上穂 準初 伊原拓 準二 小松暖 準七 加藤輪 野木亮 準五 佐々木 三段 菊池真 四段 西尾由 **杉月支部** 準八 濱端唯 準五 熊野枝 準六 大橋実 準六 大橋実 8級 上條陽 **志摩支部** 特待 大西希 五段 小林咲 四段 近藤百 準初 出口絵 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 五段 鈴木礼 四段 松本彩 準四 清治万 準三 吉川汐 準 鹿島奏 準 篠田葉 準 皆本祐 準二 宮下丈 準 田村来 準 奥山り 6中 阪田奈 5中 城山暖 4下 近藤そ 4中 谷口美 4上 小林奈 準初 出口絵 準初 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **この葉支部** 準五 小松暖 準三 坂本由 8下 石田こ 8中 石田こ 5上 加藤颯 5上 加藤颯 4中 贄寿美 準五 柚村彩 特1 加藤紬 準初 倉家杏 6上 中田大 6上 松岡咲 準六 大橋実 特1 ソフィ 準四 森田乃 準五 柚村友 三段 野村み 二段 田上穂 準初 伊原拓 準二 小松暖 準七 加藤輪 野木亮 準五 佐々木 三段 菊池真 四段 西尾由 **杉月支部** 準八 濱端唯 準五 熊野枝 準六 大橋実 準六 大橋実 8級 上條陽 **志摩支部** 特待 大西希 五段 小林咲 四段 近藤百 準初 出口絵 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 五段 鈴木礼 四段 松本彩 準四 清治万 準三 吉川汐 準 鹿島奏 準 篠田葉 準 皆本祐 準二 宮下丈 準 田村来 準 奥山り 6中 阪田奈 5中 城山暖 4下 近藤そ 4中 谷口美 4上 小林奈 準初 出口絵 準初 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **さざなみ支部** 準五 小松暖 準三 坂本由 8下 石田こ 8中 石田こ 5上 加藤颯 5上 加藤颯 4中 贄寿美 準五 柚村彩 特1 加藤紬 準初 倉家杏 6上 中田大 6上 松岡咲 準六 大橋実 特1 ソフィ 準四 森田乃 準五 柚村友 三段 野村み 二段 田上穂 準初 伊原拓 準二 小松暖 準七 加藤輪 野木亮 準五 佐々木 三段 菊池真 四段 西尾由 **杉月支部** 準八 濱端唯 準五 熊野枝 準六 大橋実 準六 大橋実 8級 上條陽 **志摩支部** 特待 大西希 五段 小林咲 四段 近藤百 準初 出口絵 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 五段 鈴木礼 四段 松本彩 準四 清治万 準三 吉川汐 準 鹿島奏 準 篠田葉 準 皆本祐 準二 宮下丈 準 田村来 準 奥山り 6中 阪田奈 5中 城山暖 4下 近藤そ 4中 谷口美 4上 小林奈 準初 出口絵 準初 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **この葉支部** 準五 小松暖 準三 坂本由 8下 石田こ 8中 石田こ 5上 加藤颯 5上 加藤颯 4中 贄寿美 準五 柚村彩 特1 加藤紬 準初 倉家杏 6上 中田大 6上 松岡咲 準六 大橋実 特1 ソフィ 準四 森田乃 準五 柚村友 三段 野村み 二段 田上穂 準初 伊原拓 準二 小松暖 準七 加藤輪 野木亮 準五 佐々木 三段 菊池真 四段 西尾由 **杉月支部** 準八 濱端唯 準五 熊野枝 準六 大橋実 準六 大橋実 8級 上條陽 **志摩支部** 特待 大西希 五段 小林咲 四段 近藤百 準初 出口絵 準二 森田有 準初 金沢虎 3中 中山瑠 五段 鈴木礼 四段 松本彩 準四 清治万 準三 吉川汐 準 鹿島奏 準 篠田葉 準 皆本祐 準二 宮下丈 準 田村来 準 奥山り 6中 阪田奈 5中 城山暖 4下 近藤そ 4中 谷口美 4上 小林奈 準初 出口絵 準初 江結 稲村凛 櫻井絆 中山大 中郎一 岡本拓 辻祥太 安斉佳 小川亜 中島大 **さざなみ

秀雪・珠紅・珠悠・小光・城彩・松聲・承風・知床・新城・瑞祥・杉・須坂・鈴鹿・硯・青雲・正桂・成城・静翠・碩雲・石峯・泉華・仙台・蒼穹・大象会・たけのこ・竹華・千曲

4下○武琛
5上朝長美
準八岡崎莉
〃吉郎
5中○徳永文
〃水晶
七段由奈
初段☆松尾波
準初吉田は
〃美幸
〃☆津呂寛
準八真子
〃稜眞
〃石原将
1上鹿島碧
七段陽
1下○福島悠
準七ちえ
〃快風
準五伊藤彩
〃○青野希
準六山本希
準2◯莉咲
2上若杉龍
2中上谷陽
五段匠悟
準四種村さ
2下○寺田和
〃加藤晴
三段桃香
5上朝長愛
5中鈴木逞
準初☆島崎花
〃汐音
〃井上結
8中廣部美
〃齋藤光
準八八木梨
〃酒井友
〃大隅隆
三段☆早川智
初段☆水野咲
〃小野み
8下○高松楓
8中才津那
〃竹村結
7上竹村結
準四宿谷颯
準初竹井桃
準六冨澤栞
準八高橋志
準七白濱な
7上○赤松佑
4上上野間千
4中○塚本凜
準六酒井美
準初関根悠
準四野本彩
特2足立は
〃関根士
準初武田楓
準四神澤安
2級中田鞠
準初横田結
〃武田楓
準八濱野葵
準八宮本俐
特待三原和
〃酒井美
〃伊東希
〃松本清
準七安野麻
七段小林暖
〃藤嶋葵
4中○柿沼奈
4下○木村麻
〃奈良勇
5中○盧美宇
5下○上原莉
〃高橋舞
〃織田将
4下○新星野心
8下新鈴木真
8上○古川漣
6中上○柿沼結
〃中村莉
4下新村優
3上木村有
3下○高橋碧
〃砂川奏
2中藤村百
〃小林侑
2上立花碧
〃松林瑞
1中松林美

8級新増島瑞
4級○徳永文
特1○深澤恵
8級○羽田有
**◯硬筆▽**
6上○横山紬
準初☆小倉斗
準五鎌田滉
8下○津呂健
4中○堀まま
8下新吉川恒
〃伊藤巨
〃向井桃
〃青木優
〃山中愛
〃平田賢
準七☆奥愛咲
準七特待□菅谷優
準八久我佳
〃奥田大
準八岡本優
4級小倉直
〃☆万代澪
〃吉田あ
〃河野武
5下○櫻井デ
6下○木村柚
〃安藤健
〃勅使河
8中○臼井心
準初江藤陽
〃鈴木暉
初段疋田結
準二高橋宗
準八柳下征
特待後藤雅
6級西詰友
3級北村隼
準八石黒銀
〃滝澤結
準五篠田雪
準四桑原侑
〃北島の
二段石黒銀
〃高橋寛
準五☆田鍋歩
準八滝澤結
2中○中村姫
〃嶋崎舞
準初矢島理
準二木内莉
準三☆千明実
6級○才津那
8級新岡本愛
〃☆阿部夢
二段菊地功
準二来斗
四段松井岳
準初片山和
6下○福貴迫
6下○冨田侑
準初☆椚原苺
4上○横田祥
6段高崎
準六佐藤嵩
8中○高原蒼
準五林浩希
7下坂巻み
7上○有夢
6中○伊藤直
6上○福田真
〃織田将
5下○上原莉
5中○盧美宇
〃○奈良勇
4下○木村麻
4中○柿沼奈
4上○新星野心
3上○高橋舞
2中藤村百
〃小林侑
〃立花碧
1中松林瑞

準初☆津呂寛
〃石原将
準八稜
〃眞
3上○上田紗
3中○冨田紗
4下○梶谷実
〃井上幸
2中井上幸
〃川村桜
七段由奈
準五☆野口姫
準六☆宮本凌
準五宮本凌
〃酒井心
〃☆大森光
四段込宮璃
準初日比夏
六段坪井創
準六早川捷
〃☆大橋茉
1中○高田啓
準五稲元伶
1中○水野咲
2下岩田健
3下相原瑠
〃酒井心
準四日比彩
準二酒井友
〃河村恭
〃野口莉
3上松久温
6上○坪井健
3中吉田真
〃幡中綾
8下横山葵
8上高山七
6中○濵田結
3中○小野さ
8下北島ち
〃嶋崎祐
〃岩澤美
7下佐藤瑠
7中小川舞
6下黒田知
3中小野一
準八館澤穂
準七河野将
6下○小林航
5上野田か
7下友田た
**正桂支部**
**△毛筆▽**
準四山崎琴
準五田中浜杏
四段岡田智
準七中島彩
七段中野嵯
準八宮脇和
〃才本優
〃新堀淳
〃新市川裕
〃新市川綾
〃新市川昇
1級○鈴木隼
4級○新瀬下蒼
3級○平尾真
〃☆坂本陽
〃松澤励
6級○松澤励
7中○扇田紗
5上○松澤励
準六☆今野真
**△硬筆▽**
5中○才木真
8上菊地颯
**石峯支部**
**△毛筆▽**
新竹内結
新竹内結
新竹内綾
新竹内結
準七○高橋あ
準四○冨田侑
準二○高橋百
準初桑原さ
準二高橋宗
準八滝澤結
準五篠田雪
準初矢島理
準二木内莉
準三☆千明実
準初片山和
準初小林璃
特1小林璃
〃新安藤綾
準初新安藤綾
準三櫻井千
準七島村優
準二戸田望
準二星杷来
1上林紗来
1中○沼野絢
2下横山莉
7上芳村公
特1芳村公
準二☆谷野友
7中岩口菜
1級須藤き
〃飯島彩
六段須藤美
七段今野真
準七○高橋慶
8中○大竹ゆ
5下○冨沢貫
5中高橋あ
6中小林あ
4下○吉田あ
2下今井柚
2上松井丈
7中○町田楓
4中○高橋ひ
〃大竹莉
準初桑原さ
準二高橋百
8上○高橋優
7中○岡村郁
特1小林璃
準初片山和
準二木内莉
準三☆千明実
四段松井岳
準二来斗
準初矢島理
〃嶋崎舞
〃吉田ひ
〃吉田あ
〃河野武
5下○櫻井デ
6下○木村柚
〃安藤健
〃勅使河
8中○臼井心
準初江藤陽
〃鈴木暉
準二高橋宗
準八滝澤結
2中○中村姫
準八高橋海
3上○高橋海
4中○成田優
4下○関根六
5上三浦ひ
5下○櫻井デ
6下○木村柚
〃安藤健
〃勅使河
8中○臼井心

3下 春日颯
4下○松沢悠
○中沢佑
〃 金井心
5下 丸田稜
〃 井上知
2下 中澤う
3下◯小川り
6上 庄村靖
8下 新三澤柑
5上◯藤川真
5下 藤川紗
〃 八 神崎隼
準八 飯村碧
3級○松沢悠
〃 ○金井心
8級 新三澤柑
**茅野支部**
**＜毛筆＞**
特待 真道裡
準八 伊藤瞭
七段 日置雄
準八 横田彩
準五□桐原彩
五段 伊東遙
準初 大島咲
六段☆伊藤康
三段 横田泰
初段 小林陸
特2○丸茂星
初段○大島海
6上○日置千
4下○松沢悠
○中沢佑
〃 金井心
準七段□前田莉
準五 岸慶二
準四 増田あ
準四 増田大
準四 増田大
準三 吉家莉
準四 樋口愛
準三 樋口愛
準七 鈴木大
五段 伊東柚
準四 増田大
準七 高橋香
四段 塩川玄
特1○倉田き
二段 外丸敦
〃 広瀬明
〃 酒井文
準七段 畑柚季
準六 中嶋桃
準五 川又愛
準初☆梅林義
五段☆梅林義
〃 ○加藤晴
8下○緑川和
準八 藤木芽
七段 城戸葉
〃 佐々木
準二 篠塚春
初段 古俣花
〃 倉田康
〃 新西村和
〃 ○堀場光
〃 新榎戸優
8級 新中塚晴
〃 藍浦花
準四 高口幸
準二 篠塚春
初段 古俣花
〃 倉田康
〃 新西村和
〃 新児玉す
〃 新榎戸優
7級 新山口瑚
準七段 関口晴
準七 茂木心
準三 三谷優
〃 ☆岩田夏
二段 宮内未
準初 蓮尾紗
準五 小林望
準六☒関一
準二 川崎葵
初段 嶋野頼
準七段 嶋野頼
準七 茂木心
準三 三谷優
〃 ☆岩田夏
〃 ☆小椋夏
〃 高橋航
5上○西舘花
7下 今井末
7中 梅津凛
8中 中村心
8上 高林彩
7下○小口遥
〃 ○小口遥
〃 ○小口遥
〃 

準初 養田涉
〃 〃 塚越匠
特2○尾形乙 内堀快
〃 五段☆玉川みゆ 深津結
1上○河邉真 古後光 六段 宗
1下○秋元祐 玉川緑 1上 伊東す
6下○志村心 ＜硬筆＞ 〃 〃
8下 白石唯 準初☆玉川緑 1級○小林美 新盛川実
7下 村島勇 4級○蟹澤悠 1級○小林彩 〃 平良颯
1上○千葉涼 住谷琉 西尾芽 平成支部 6級○新田小 準六 西谷桃 ＜硬筆＞ 〃 〃
4下○寺澤晃 相原な ＜毛筆＞ 7級○田中優 準八 秋谷結 ＜毛筆＞ 〃 〃
4上○名取柚 石井桜 特待 宝春支部 2級 大久保 準五 竹島姫 七段□竹島華 〃 〃
3下○藤平耀 釘宮隆 星見愛 〃 〃 〃

〈硬筆〉
特1○村上永
8級新小野凌
7級○内尾悠
優生支部
〃新新井千
準六野代菜
三段天倉唯
3級内山千
特1武田紗
準三天倉煌
5上千明五

〈毛筆〉
右文支部
準三藤原颯
準八松本夏
六段手塚絢
〃☆田本あ
準五金光芹
準六石野那
準初半沢碧
五段清水優
準六笠神万
準五井藤翔
8段○服部楓
準六先崎結
4段○中川さ
4上藤井望
3下○吉田愛
3上○中野知
準八工藤愛
特1○松尾琉
四段☆駒ヶ嶺
8下○溝口凱
〃早川華
準八□山口る
2下○栗田佑
2中小倉希
1下○伊賀鼓
2上菊池玲
特1藤原陸
準三武田紗
特1畦本明
準初富井理
8中田中美
4下高橋愛
特1松尾柚
準初小松崎
4下佐藤ち
四段小口遼
〃岡野心
準八駒ヶ嶺
準七齋藤一

〈毛筆〉
李光支部
三段小宮向
準初鈴木悠
準初☆大井杏
準初塩本悠
準二清水湧
二段荻原大
準六□古内ゆ
準四今尾寧
初段田村佳
準五☒藤崎竜
富井智
1上藤崎咲
特2藤井理
準初小田村柑
準二清水湧
準初☆大井杏
特1松尾柚
2下小松崎
4下佐藤ち
四段小口遼
6中○平野寧
8下○田中樹
〃富井理
準初鈴木柚
4下高橋愛
8中田中美
8級○渡辺杏
1級○佐生結
準八
好野支部
〃○たかみ
〃〃〃

# 改組 新 第７回日展 開催概要

**◆会　　期**　令和２年10月30日(金)～令和２年11月22日(日)
※休館日：毎週火曜日
※ただし11月３日(火・祝)は開館・11月４日(水)休館(11月４・10・17日)

**◆観覧時間**　午前10時～午後６時（入場は午後５時30分まで）

**◆会　　場**　国立新美術館
所在地　東京都港区六本木　7-22-2
**アクセス**　東京メトロ千代田線「乃木坂駅」６番口直結
東京メトロ日比谷線「六本木駅」４a 口より徒歩約５分
都営大江戸線「六本木駅」７番口より徒歩４分

**◆改組 新 第７回日展 巡回展スケジュール（予定）**

京　都　令和２年12月19日(土)～令和３年１月15日(金)　京都市京セラ美術館
名古屋　令和３年１月27日(水)～令和３年２月14日(日)　愛知県美術館ギャラリー
大　阪　令和３年２月20日(土)～令和３年３月21日(日)　大阪市立美術館
富　山　令和３年４月24日(土)～令和３年５月９日(日)　富山県民会館美術館
※内容は変更となる場合があります

## 書象会便り

**◆日展審査員に内藤望山先生ご就任**
改組新第７回日展の審査員に、本会の内藤望山先生が就任されました。自己の向上とより高いレベルの作品づくりを目指しましょう。

**◆改組新第７回日展の添削会及び最終選考会**
表記展に向けての添削会を第一回目が七月五日(日)、第二回目七月二十六日(日)に実施しました。今後の予定は次の通りです。
△添削会▽
第三回　八月二十三日(日)　中野「栢美」
第四回　八月三十日(日)　中野「栢美」
第五回　九月六日(日)　武蔵野スイングホール△書類提出▽
◇最終選考会　九月十三日(日)　武蔵野公会堂

**◆春季昇段級試験・師範・準師範・特待生試験審査終了**
七月二十一日(火)に締め切られた標記試験の審査が、七月二十六日(日)に終了いたしました。当番審査員の厳正な審査により、各位の昇格などが決定されました。

**≪書展予告≫**
**☆第９回高風書道会展**
会　期　十月九日(金)～十一日(日)
会　場　谷口文栄堂三階　ギャラリーたにぐち
主　宰　畑中高山
後　援　福井新聞社　書象会　謙友社

**令和二年七月豪雨の被害にあわれた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます**
この度の熊本を中心とする九州各地、また中国・四国および中部地方で記録的な大雨、洪水により甚大な被害にあわれ、困難に直面しておられる皆様方に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

発行人　（有）書象
代表　上條節夫
東京都武蔵野市吉祥寺北町四―三―六
郵便番号180-0001　電話〇四二二(五三)九七四三
振替口座　〇〇一九〇―七―二五六九一
振替名儀　（有）書象
印刷所　株式会社リンクス

氏名

令和二年九月一日発行（毎月一回一日）第六十八巻　第九号　通巻七七八号　http://www.shoshou.com　定価六一五円　送料八五円